

【優秀賞】

ギャップイヤーを応用したデモワーク型奨学金の創設

学習院大学	経済学部	薄井 俊介
〃		今野 裕莉香
〃		長谷川 梨沙
〃		平川 悠貴

(提言の要約)

勉強をしたいが学費が捻出できない学生のためにある奨学金制度。年々利用者は増加傾向にあり、身近な制度となってきた一方、滞納者が一定数存在することが問題として指摘される。我々は、この滞納問題は学ぶ事のコストを把握できていない学生が多い事が原因ではないかと考えた。そこで新しい奨学金として「デモワーク型奨学金」の提案をしたい。ギャップイヤー制度を応用し、この奨学金を利用する学生が大学に進学する前に1年間企業で働き、大学に行くことのお金を知ることで勉強の意欲を高め、奨学金の滞納を減らすとともに、奨学金の将来返済額の負担を軽減することが我々の狙いである。

この奨学金の意義として、以下3つがあげられる。第1に、奨学金の返済率を改善することである。大学生活を目的もなく「なんとなく」過ごした結果、就職活動にも失敗し、十分な収入が得られず奨学金の滞納をしてしまうことが少なくない。日本学生支援機構の調査では、現在33万人前後の滞納者がおり、その上位を占めるのが収入減や支出増などの所得に関する理由である。そこで1年間働くこと(デモワーク)によって就業意識を高め、将来安定した収入を得られるようにサポートすることで返済率を引き上げる。

第2に、学生自身の成長を促がすことである。学生は、進学する前に働き、そのお金の一部を使って大学に行くことで、進学することのお金と学ぶことの尊さを体感することができ、より高い目的意識を持って大学生活を送ることができる。またデモワークの最中に、デモワーク経験者との交流を持ち、情報を共有することで先々の不安を軽減する。在学中は、奨学金の返済をより可能とする就職ができるように、金融教育や就職に必要なと思われる資格、語学教育などのサポートを行い、高度な人材を育成する。

第3に、デモワーク受け入れ先の企業にメリットがある。近年はESG投資として社会に寄与している企業に積極的に投資をする動きがあるが、デモワーク企業として学生を受け入れることは社会貢献活動となり、知名度を上げることができる。さらに、デモワークをした学生に卒業後就職してもらうことができれば、人材不足の解消や優秀な人材の確保ができる。会社規模や業種にかかわらずこの奨学金に協力してもらうことで、会社のイメージアップに役立つ。

デモワーク型奨学金の最大の特徴は、ギャップイヤーの応用として1年間のデモワークを行う点にある。実際、海外の調査によると、ギャップイヤーを利用した学生は利用していない学生に対して時間管理能力や就学後のモチベーションなどが高いという結果が示されている。

デモワークに参加した学生は、一足先に社会を経験し、人間的に成長することで奨学金の返済率が改善する。この新たな仕組みを提言することで、多くの学生が安心して学べる環境を整える手助けとなることを強く願う。

1. 奨学金制度における問題と提言

現在日本には様々な奨学金が存在する。年々新しい奨学金が増え、利用する学生も増加しており、今や学生の4人に1人が奨学金を受給していると言われている。このように奨学金は身近な制度となってきた一方、しばしば問題として指摘されるのが「滞納者」の存在である。

日本で最も利用者が多い日本学生支援機構（以降 JASSO）の奨学金制度を例に考える。JASSO の直近 6 年間（平成 21 年度から平成 26 年度まで）の貸与型奨学金延滞者数の推移を見ると、長期延滞者の割合は減少しているものの^[1]、毎年一定数（33 万人前後）の延滞者が存在していることがわかる（資料 1）。JASSO の奨学金の財源において返還金の占める割合は高いため、将来に渡り多くの学生を支援するには、奨学金が確実に返済されることが極めて重要となっている。

ではなぜ延滞してしまうのだろうか。我々は「なんとなく大学に進学するため」「なんとなく借りてしまう」という、学生の意識に問題があるのではないかと考える。

2014 年に JASSO が行った「平成 26 年度学生生活調査」の中で、学生（大学学部屋間部）の不安や悩みについて、約 40% が「卒業後にやりたいことが見つからない」と回答している^[2]。この調査結果からは、大学に進学はしたものの大学生活の中で将来やりたいことを見つけられず、「なんとなく」過ごしてしまっている学生の姿が伺える。そこで我々は実際に、神奈川県の高校 3 年生と学習院大学の学部生を対象にアンケート調査をし、大学への進学理由を尋ねた。すると、「大学に行くのが普通だから」「なんとなく」と答える高校生は全体の 45% 存在し、大学生においても 42% も存在することがわかった（マルチアンサーなので全体は 100% にならない。詳しくはアンケート調査結果報告を参照されたい）。

さらに延滞理由について、2013 年に JASSO が滞納者を対象に行った「平成 25 年度奨学金の延滞者に関する属性調査」では、「家計の収入が減った」を挙げた人が 2,948 人、「家計の支出が増えた」を挙げた人が 1,397 人と多くの割合を占める^[3]。返還時の収入減と支出増による所得の減少が、延滞の問題となっていることがわかる。返還率を上昇させるためには将来所得を増加させる必要があり、そのためには学習意欲と将来への目的意識の高い学生の育成が大切であると考えられる。

「大学全入時代」と言われて久しい今こそ、改めて学生が「大学に進学する目的」「大学で学べることの貴重さ」「就業意識」などを見つめ直し、モチベーションを高める機会が必要なのではないか。このような問題意識のもと、我々

は海外の「ギャップイヤー」の考え方を応用し、学生が奨学金を借りて大学に進学する前に1年間企業で働くことを課すことで、学生の勉学意欲を高めるとともに奨学金の負担を軽減する「デモワーク型奨学金制度」を提言する。

2. 海外のギャップイヤーの先行事例

ギャップイヤーとは親元や教員から離れた非日常下での経験のことを指す。最近では東京大学など日本でも利用され始めた制度だが、今回は一歩進んでいる海外の事例を参考にしたい。文部科学省の「諸外国におけるギャップイヤー状況」(資料 2)によると、ギャップイヤーの利用のタイミングは大学入学前、休学利用等のタイミングがある。主な活動は国内外でのインターン・ボランティア、他には語学研修に費やされるなど様々である。一つオーストラリアの事例を参照すると、ギャップイヤー経験大学生は全体の50%を超え、また就学後のモチベーションや企画力、忍耐力、適応能力、時間管理能力が未経験大学生に比べて高いことが統計的に立証されている。このような事例から判断すると、大学合格から入学までの間に一年間の就業期間(デモワーク期間)を設けることは、奨学金による負担を軽減するとともに、学生自身の成長を促し、勉学に対する意識を高めることができる、まさに一石二鳥の提案と言える。

3. デモワーク型奨学金制度の概要(貸与・返還フロー)

「デモワーク型奨学金制度」は先述の通り、学生にはまず、大学進学前に1年間企業で働くという「デモワーク」を経験してもらう制度である。アルバイトとは違い、この間学生は大学には通わず、社員と同じように勤務に専念してもらう。勤務満了後に奨学金を利用することが可能となり、大学に進学することになる。そして通常の奨学金同様、大学を卒業してから返済が開始される。

具体的には以下のようなフローで事業を行う(資料 3)。

- (1) WEBサイトで「制度説明」「デモワーク先のマッチング検索機能」「デモワーク先の業種別紹介ページ」「オンライン上での説明会の開催(インターネット視聴)」「返済シミュレーション機能」などを充実させ、受給者を募集する(資料 4)。デモワーク先の企業は中小企業を対象とする。
- (2) 受給希望者にはWEBサイトから申し込んでもらう。顔写真、名前、住所、口座番号、保証人情報などの他に、①高校の成績、②課外活動、③自己PR、④希望業種と、希望デモワーク先(第3希望の企業名まで)を入力してもらう。
- (3) まず入力情報をもとに貸与審査を行い、貸与するか否かを決定。
- (4) 無事審査を通り貸与が決まった者を、希望デモワーク先を考慮して企業とマッチングさせる。
- (5) デモワーク受け入れ企業は、自社を希望する学生を選考し、採用するか

否かを決定する。

- (6) 採用された学生は、1年間大学には通わず、給料を得ながら正社員と同じように働く（デモワーク）。
- (7) 企業は採点評価シート（資料 5）に基づいて月ごとに学生を評価する。評価項目は、グラミン銀行の「性格（キャラクター）」を重視して貸与する姿勢を参考にし、その人の人間性をよく見る「出勤態度」「周囲とのコミュニケーション能力」「積極性」といった項目を多く取り入れる。
- (8) デモワーク終了後、学生は借りる金額と金利を決定し申請する。デモワーク中の評価が高い者には、「ボーナス（給付型奨学金）」を与える。
- (9) 大学在学中の受給者を対象に毎月集会を開き、大学生活のカウンセリングや、本制度を利用した先輩・後輩の交流による縦のつながりの強化、返済への意識喚起などのフォローアップを行い、就業意欲と返済意識を高く保ってもらう。
- (10) 就職活動の際にはデモワーク先への就職も可能とする。
- (11) 大学卒業後、返済が開始。
- (12) デモワークをした感想や本制度を利用した感想などをレビューしてもらい、WEBで公開。受給者の募集と、参加した中小企業も社会貢献活動を行っているという点で知名度向上につなげる。

4. デモワーク事業の具体的な展開の例

例えば、デモワーク事業を東京都豊島区からスタートさせる場合を考える。

- (1) 東京都豊島区所在の中小企業 19547 社^[4]を対象に、デモワーク受け入れ企業として参加を募集。様々な業種の企業に参加いただく（資料 6）。
- (2) 平成 26 年度の日本の大学学部（中間部）奨学金受給者の割合は 51.3%^[5]。これを参考数値とし、平成 26 年度の豊島区民の大学進学者数 2,692 人^[6]のうち、50%の 1,346 人が奨学金を受給すると仮定。このうち約 34%（資料 7）の 457 人が本制度を利用すると仮定。
- (3) 中小企業 19547 社の最低約 2.3%の 457 社に参加してもらえれば、1社あたり 1 人受け入れてもらえ、事業として運営可能。

このように展開し、東京都豊島区からゆくゆくは東京都全体、関東全体、と規模を広げていくことになる。

5. デモワークによる返済負担の減少

デモワーク中に企業から得る給料の一部を授業料に回すことで、借りる金額を押さえ、返済の負担を軽減することが出来る。

まず代表例として JASSO の現行制度における返済負担について触れる。平成 24 年度に JASSO の貸与型奨学金受給者が 1 年間平均で受給した額（資料 9）

は、1人当たり88.8万円、利子は0.1%複利である。これを仮に4年分借りたとすると総額は355万円に上り、月々の返済額は10年返済で30,000円、20年返済で15,000円となる。

一方デモワーク型奨学金制度を利用し、1年のデモワーク中に158万円（平成24年度高卒平均給与額^[7]）を得たと仮定する。下宿している大学生の年間平均生活費約104万円を生活費（資料8）に充て、残りを授業料に充てると、借りる総額は従来制度に比べ約15%減少した301万円に抑えられる。月々の返済額も、10年返済では約25,000円と従来制度に比べ5,000円減り、20年返済では約13,000円と2,000円減る（資料9）。

6. 本制度による効果

デモワーク型奨学金制度が従来制度と大きく異なるのは、大学進学前に学生が1年間就業体験（デモワーク）に専念する点である。この「デモワーク」を経験することにより、学生は「大学に行くためのお金を稼ぐ大変さ」を実感し、お金を払って大学に通っている事実を再認識して学業への意識を高めると共に、奨学金に対しても、安易にお金を借りることや借り過ぎを抑制することができる。就業意識も向上するので、受給者における就職率が増加し、延滞者の減少が期待される。学生にとっても、本制度を利用することで一足先に社会を知る機会を得られる上に、先述の通りデモワーク中に得た給与の一部を授業料に回せば借りる金額が減り、将来の返済の負担を軽減できる。

一方、デモワーク受け入れ先の中小企業にとっても、本制度に参加することで、身近な企業として学生に知ってもらえる機会となるメリットがある。毎年新卒採用の時期に中小企業と大学新卒者のミスマッチが問題となるが、本制度への参加はその解消につながる。あるいは首都圏ではなく、地方でこの事業を行った場合にもメリットがある。地方では大学進学のため上京し、就職もそのまま東京とする学生が多い。しかしこの事業によって、上京する前に学生が一度地方の企業で働くという経験をするすることで、Uターン就職にもつながりやすくなる。それにより地方の企業と大学新卒者のミスマッチを解消することにもつながるであろう。

加えて、本制度は、中小企業全体という大規模で取り組む新たな形の「CSR（社会的責任）事業」に位置づけることが可能である。CSRは企業規模によって取り組みの状況に差があり、大企業は積極的に取り組んでいるものの、中小企業においては、人的余裕が不足しているなどの要因により遅れが指摘されている^{[8][9]}。しかし近年ではESG投資が注目されるなど、企業の社会的責任に対する取組は重要視されており^[10]、企業の評価に影響を与えるようになっていくことから、中小企業にとってはデモワーク事業に参加するのに十分なイン

センティブになるだろう。また、本事業をきっかけに中小企業における CSR への意識を高めることにつながるという社会的なメリットもあると考えられる。

7. 問題点と解決策

まず、デモワークにより周りから 1 年遅れることに対して抵抗を感じてしまうことから、制度を利用する学生がなかなか増えないという問題が考えられる。この点については、「2. 海外のギャップイヤーの先行事例」という章で紹介した「ギャップイヤーの取得による効果が統計的に立証されている」事実などを用いて、制度のメリットを積極的に学生に広報していくという対策が可能である。留学説明会のように、デモワーク型奨学金制度の説明会を開き、実際に制度を経験した学生に体験談を話してもらうという対策も有効であろう。

また本制度では、大学進学前の 1 年間、学生は大学には通わずデモワークをすることとしている。このときデモワーク中の学生を、合格した大学ではどのように扱うべきかという問題がある。この問題については、本制度が様々な大学との連携をし、大学側にデモワーク中の学生を休学扱いにさせていただくことや、休学費を免除していただくなどの対応をお願いすることで解決したいと考えている。

加えて、本制度は奨学金事業に「デモワーク事業」が加わるため、新たなデモワーク事業運営をどの主体が行うかを考える必要もある。本提言の一つの目的が奨学金の延滞者を減らすことであるから、できれば最初のサイト運営の立ち上げは、奨学金事業のウェブサイトを利用させていただく形で始めたい。将来的には、デモワーク経験者が大学生時代にボランティアとしてサイト運営を協力することを提案する。

8. おわりに

我々大学生は普段、「大学に通う」ことの意味や価値に無頓着である。今回提言した「デモワーク型奨学金制度」は、そんな大学に通うことの意味や価値を意識せず「なんとなく」大学に行こうとしている若者を、「自らの意思で」大学に行く若者へと成長させるきっかけとなる。受け身であった若者はデモワークを経験しお金を稼ぐことの大変さを知る。それにより「多額の授業料を払って大学に通う」ことの意味と価値に気づき、今まで教育機会を与えてくれた親に対し改めて感謝の気持ちを抱くと同時に、学校という閉じた世界にいた学生が、大学に進学する前に一度社会に出て世界を広げることで、自ら学ぶ姿勢と、自ら成長する力を手に入れる。このように本奨学金制度が、これからの日本の未来を担う若者を支える一つの新しい支援の形として実現されることを、我々は期待している。

脚注

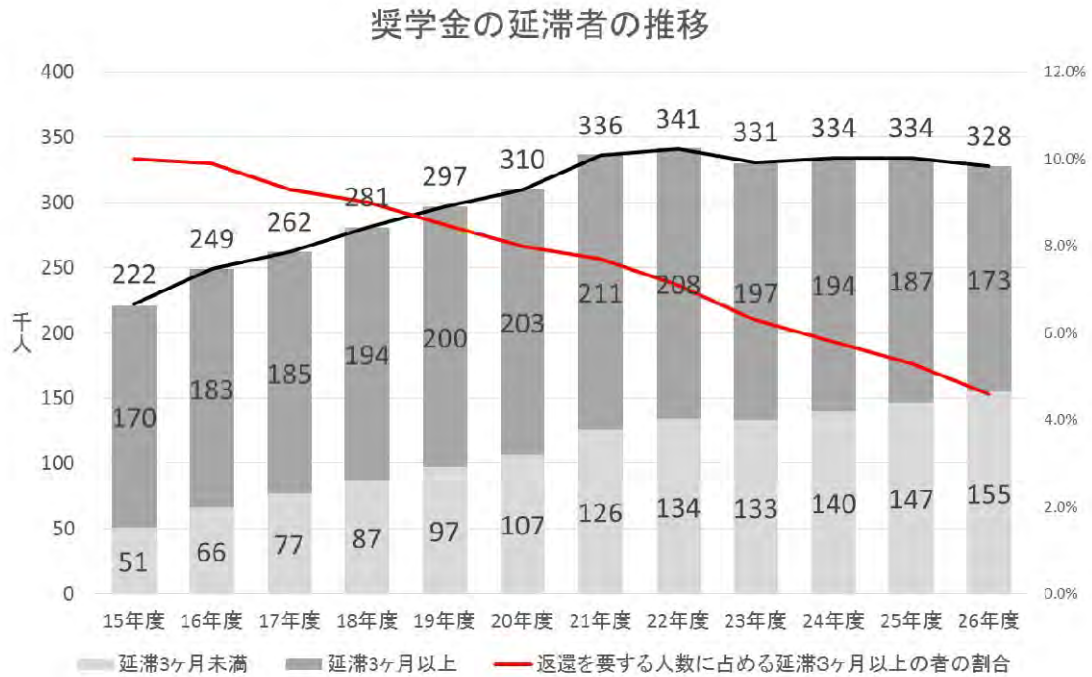
- [1] 文部科学省の「所得連動返還型奨学金制度有識者会議（第6回）配付資料」の「参考資料 4 奨学金事業関係資料」中の「3.（独）日本学生支援機構 奨学金の延滞者の推移」のスライドを参考に記述。
- [2] 日本学生支援機構の「平成 26 年度学生生活調査報告 学生生活調査結果の概要（PDF）」の p.43「11-1 表」より引用。
- [3] 日本学生支援機構の「平成 25 年度 奨学金の延滞者に関する属性調査 結果の概要（PDF）」の p.6「表 5-1」より引用。
- [4] 「平成 19 年 としまの統計 3 事業所（平成 19 年）」のページの「豊島区 産業大分類、従業者規模（10 区分）別事業所数及び従業者数（18 年 10 月 1 日）」の事業所数の総数より引用。
- [5] 日本学生支援機構の「平成 26 年度学生生活調査」結果の概要」の p.8 の平成 26 年度の大学学部（昼間部）の奨学金受給状況より引用。
- [6] 「平成 26 年 としまの統計」のページにある「高等学校の進路別卒業者数(平成 25 年～26 年・各年 5 月 1 日)」より数値を引用
- [7] 厚生労働省「賃金構造基本統計調査（初任給）」の「平成 24 年賃金構造基本統計調査結果（初任給）の概況：1 学歴別にみた初任給」より、157.9 千円を四捨五入して引用。
- [8] ニッセイ基礎研究所「日本企業の CSR 活動の現状と今後の課題」（小本 恵 照著）では次のように述べられている。『』内は引用。『企業規模別では、大企業では 73.6%がすでに CSR に取り組んでいるなど、企業規模が大きいほど CSR に前向きである。しかし、中小企業にあっても、半数を超える企業が CSR に取り組んでおり、CSR は企業規模を問わずかなり浸透していると言える。』
- [9] ニッセイ基礎研究所「日本企業の CSR 活動の現状と今後の課題」（小本 恵 照著）では次のように述べられている。『』内は引用。『企業規模別に見ると、中堅・中小企業に「財務的余裕がない」「人的余裕がない」という意見が多く見られ、企業経営に余裕が生まれてから CSR 活動を実施するという企業が少なくないことを示している。』
- [10] ニッセイ基礎研究所「日本企業の CSR 活動の現状と今後の課題」（小本 恵 照著）では次のように述べられている。『』内は引用。『企業規模別に見ると、大企業の方で、重要性が高まるという見方が強い。CSR の取組状況別に見ると、「熱心に取り組んでいる」企業では、「非常に重要になる」という回答が 23.3%に達している。』

資料

目次

資料 1	奨学金の延滞者の推移	8
資料 2	諸外国におけるギャップイヤー状況 文部科学省 2013年	9
資料 3	デモワーク型奨学金の事業フローチャート	10
資料 4	ウェブサイトでのデモワーク奨学金利用者募集例	11
資料 5	デモワーク中の採点シート例	12
資料 6	豊島区の業種別事業所数の割合	13
資料 7	奨学金受給者中本提言に興味を持つ可能性のある学生	13
資料 8	大学生の平均生活費	14
資料 9	本提言による返済負担の変化	14
アンケート調査結果報告		15
補足資料		54
参考文献・資料		64

□ 資料 1 奨学金の延滞者の推移

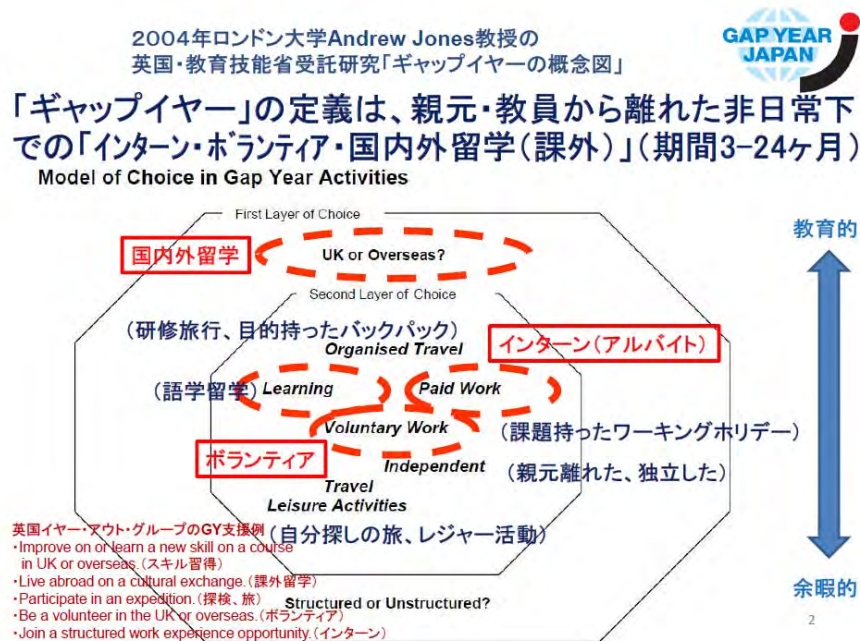


文部科学省「所得連動返還型奨学金制度有識者会議（第6回）配付資料」の「参考資料4 奨学金事業関係資料」中の「3.（独）日本学生支援機構 奨学金の延滞者の推移」のスライドをもとに作成。

- 資料 2 諸外国におけるギャップイヤー状況 文部科学省 2013年
 文部科学省の「学事暦の多様化とギャップタームに関する検討会議（第3回）配布資料」の「資料3 砂田委員資料（PDF）」より引用（画像も引用）。

<http://ur0.pw/zMpa>

諸外国においては、ギャップイヤー制度がメジャーであることがわかる。



オーストラリアの事例①



高校卒業後の学習意欲とその成績の関係調査(250人) ギャップイヤー経験大学生 > 未経験大学生

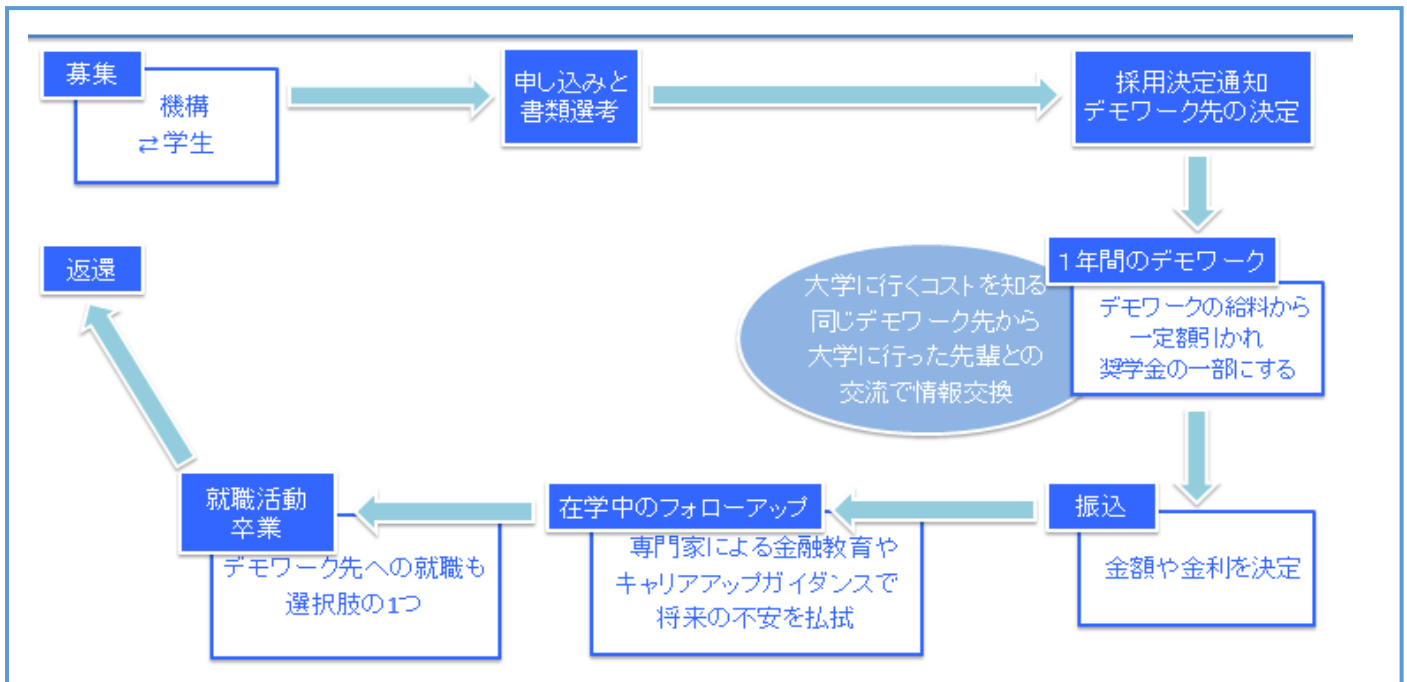
- ①就学後のモチベーション②企画力③忍耐力④適応能力
 ⑤時間管理能力がいずれも高いことを統計的に立証。

(2010年世界教育心理学会の査読論文。シドニー大学アンドレー・マーティン教授)



ハーバード・プリンストン・MIT等米国の大学のギャップイヤー導入の目的は、「学生のバーンアウトと中退防止効果」だったが、この論文の発表で、導入が積極的・加速的になると予測。

□ 資料 3 デモワーク型奨学金の事業フローチャート



□ 資料 4 ウェブサイトでのデモワーク奨学金利用者募集例

説明会や資料請求、奨学金シミュレーターを記載。学生だけでなく企業の方にも興味を持ってもらうことも狙いの一つ。

//////////////////// デモワーク型奨学金 //////////////////////

HOME デモワーク型奨学金とは 学生ログイン 企業ログイン お問い合わせ

説明会申し込みフォーム

お名前
メールアドレス
電話番号
学校名(任意)

説明会予約

説明会の詳細ページ

2017年度
デモワーク奨学金説明会
12月〇〇日
会場：〇〇

WIX サイトを作ろう!

デモワークは学生に寄り添う奨学金

01 奨学金を返済できない学生を減らすために

近年の奨学金滞納者数は30万～35万人。この多くは収入減や支出増が原因。その負担を減らすための新しいタイプの奨学金です。

02 学生のキャリアアップのために

在学中も学生をサポート。現代社会を生きるために必要な知識、情報を身につける場を提供します。英語教育や各種資格取得の手引きをおこなっています。

03 奨学金を借りることに不安を感じる学生のために

奨学金とは借金です。しかしあなたをレベルアップさせる資本です。適正な貸与金額と返済計画を専門スタッフがあなたと共に考えます。

04 学校に通うコストを知るために

事前に、あなたの学ぶために必要なコストを知ることが学ぶ意欲を起こさせます。なぜ学校に通うのか見つけ直す機会になるでしょう。

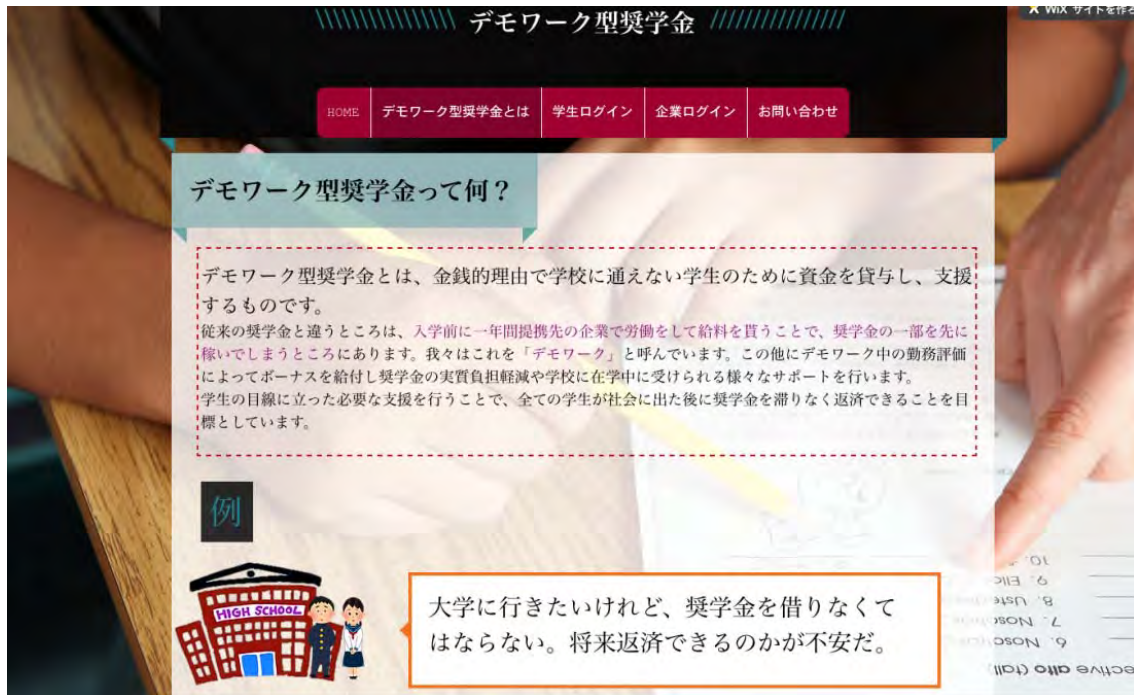
GO!! 進学の前に働くという選択

お金はなくても学びたいことはあるから。そんなあなたのはじめの一歩を後押しします。

デモワーク型奨学金の詳細はこちら

© 2016 by Demowork Promotion Organization created with Wix.com

トップ



このような色々な情報を載せることでデモワークをする意味を知ってもらい、規模と知名度を上げていく。

□ 資料 5 デモワーク中の採点シート例

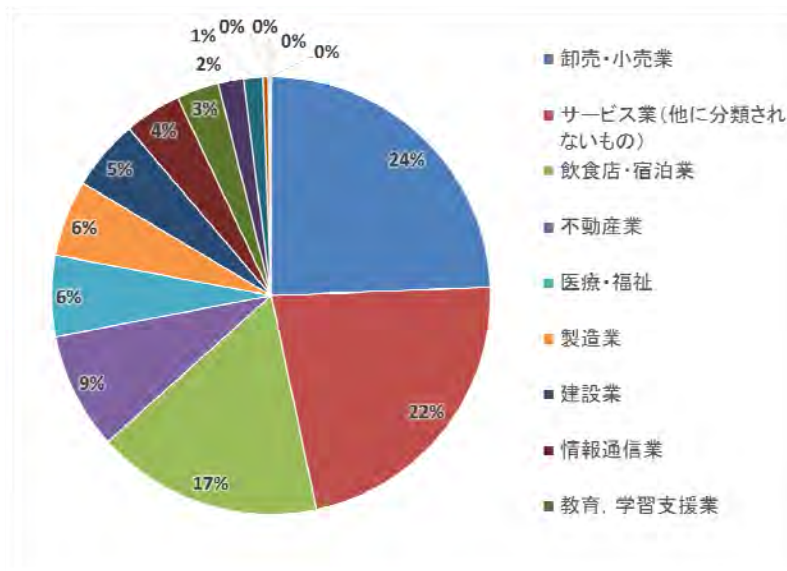
このような評価基準でボーナス支給をすることでデモワーク中の「やる気」を引き出す。

真面目にデモワークに取り組む学生を優遇し、ボーナスを学費に充ててもらうことで奨学金受給額を減らすことが目的。

	4月	5月	6月	7月
出勤態度	5	5	4	5
仕事の評価	2	3	4	4
周囲との人間関係	4	4	5	5
etc				

□ 資料 6 豊島区の業種別事業所数の割合

「平成 19 年 としまの統計 3 事業所（平成 19 年）」のページの「豊島区 産業大分類、従業者規模（10 区分）別事業所数及び従業者数（18 年 10 月 1 日）」をもとに筆者作成。

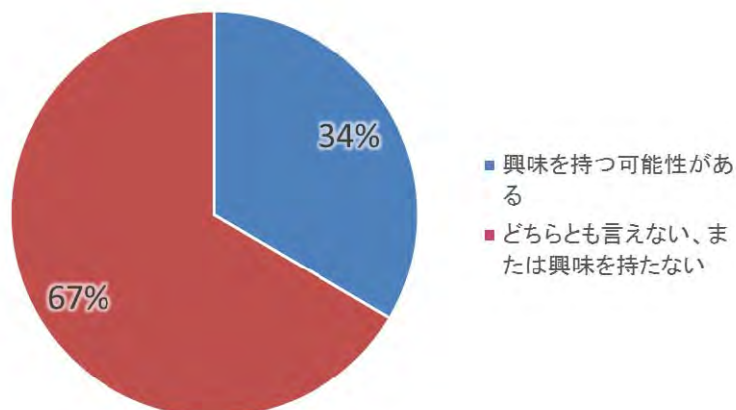


卸売・小売業、サービス業、製造業など多様な業種の会社に協力していただくことで、学生が働いてみたいデモワーク先を見つけることができる。

□ 資料 7 奨学金受給者中本提言に興味を持つ可能性のある学生

貸与型奨学金を受給している大学生と、奨学金を受給する予定の高校生の中で、アンケートにおいて「インターンで働いてみたいと思う」という設問で「はい」と答え、且つ「ギャップイヤーを利用してみたいと思う」という設問で「とても思う」「思う」と答えが学生の割合…34%

※アンケートの詳細は「アンケート調査結果報告」を参照されたい。



□ **資料 8 大学生の平均生活費**

日本学生支援機構の「平成 26 年度学生生活調査結果 (PDF)」の「1—1 表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳 (大学昼間部)」の「下宿、アパート、その他」の欄の平均値より算出。

<下宿している大学生の年間支出>

平均支出：2,129,900 円

①内学費 (授業料+その他の学校納付金+修学費+課外活動費+通学費)：1,090,900 円

②内生活費：1,039,000 円

□ **資料 9 本提言による返済負担の変化**

平成 24 年度 奨学金受給者の平均額 **88.8 万円/人** (※算出方法)

平成 24 年度 JASSO 有利子奨学金 利子率 複利 0.1%

大学 4 年間奨学金を借りるとすると **88.8 万円×4 年間=355 万円**

平成 24 年度 **高校卒業後初任給 平均額 158 万円**

→その内 104 万円を生活費として使い、残り **54 万円を奨学金**に充てるとする。

	奨学金総額 (実際に返済する奨学金額)	月々の返済額	
		10 年返済	20 年返済
従来	355 万円 (355 万円)	29,500 円/月	14,790 円/月
提言	355 万円 (355-54=301 万円)	25,083 円/月	12,542 円/月

このように、10 年返済の場合は約 5,000 円の負担減、20 年返済の場合は約 2,000 円の負担減となる。実際の負担額の減少とともに学生の成長や大学に行くコストを働いて知るといふ金融教育としての機能からデモワーク型奨学金を提言したい。

【※算出方法】

平成 24 年 5 月の「資料 4 (独) 日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金貸与事業の概要 (PDF)」の「奨学金貸与事業の概要 (平成 24 年度予算)」のスライドより、有利子奨学金事業における事業費 (8496 億円) ÷ 貸与人員 (95 万 6 千人) より算出。

アンケート調査結果報告

(1) はじめに

高校 3 年生と大学学部 1～4 年生を対象に奨学金に関するアンケートを行った。その結果の概要を記す。

詳細については「平成 28 年 高校生の奨学金に関するアンケート調査結果」「平成 28 年 大学生の奨学金に関するアンケート調査結果」を参照されたい。

(2) 奨学金への意識について

奨学金を受給予定の高校 3 年生と貸与型奨学金を受給している大学学部生の両者とも、半数以上が返済に不安を感じている。これから奨学金を受給する予定の高校 3 年生の方が、より不安を感じている割合が高い。

(3) 大学への進学理由について

高校 3 年生と大学学部生の両者とも、「就職のため」という回答が 40%を占め、次いで「大学に行くのが普通だから」が 30%ほどを占める。「学問を深めたいから」を回答した学生の割合は、高校 3 年生では 23%存在したものの、大学学部生では 12%に留まった。少ないながら「なんとなく」を回答した学生も存在した。

(4) ギャップイヤーについて

ギャップイヤーの認知度は、高校 3 年生と大学学部生の両者とも、10%ほどに留まった。ギャップイヤーの制度と海外での普及状況を説明したあと、ギャップイヤーを利用したいか聞いたところ、両者とも「とても思う」「思う」合わせて半数を超えた。

(5) 大学進学前のインターンについて

高校 3 年生と大学学部生の両者とも、大学進学前にインターンで働いてみたいという回答が 80%を超えた。また、インターンのような機会を利用することは、自分の将来（就職）について考える手助けになるとの回答も 80%を超えた。

1. 平成 28 年 高校生の奨学金に関するアンケート調査結果

I	調査の概要	18
(1)	調査目的	18
(2)	調査対象	18
(3)	調査方法	18
(4)	調査日	18
(5)	アンケート総数	18
(6)	分析の手法	18
II	調査結果（基本情報）	19
(1)	属性（性別）	19
(2)	大学への進学意思	19
(3)	志望大学について	19
(4)	学費への認識	20
(5)	奨学金受給予定の学生	20
III	奨学金を受給する者の奨学金への意識	21
(1)	給付型・貸与型について知っているか	21
(2)	貸与型奨学金の返済義務を知っているか	21
(3)	返済への不安を感じているか	21
IV	大学への進学理由	23
V	将来（就職）への意識	24
(1)	大学進学を希望する学生の将来（就職）への意識	24
(2)	給付型・貸与型についての知識に応じた将来（就職）への意識	25
(3)	貸与型奨学金の返済義務の知識に応じた将来（就職）への意識	26
(4)	返済への不安感に応じた将来（就職）への意識	27

VI	ギャップイヤーについて	28
	(1) ギャップイヤーを聞いたことがあるか	28
	(2) ギャップイヤーを利用してみたいか	29
VII	インターン（就業体験）について	30
	(1) 大学進学前にインターン（就業体験）をしてみたいか	30
	(2) インターン（就業体験）のような機会を利用することは、自分の 将来（就職）について考える手助けになると思うか	31
VIII	本制度に興味を持つ可能性のある高校生の割合	32
IX	調査票原本	33

I 調査の概要

(1) 調査目的

「奨学金に関するアンケートのお願い」は、本提言「ギャップイヤーを応用したデモワーク型奨学金の創設」を考えるにあたり、実際の高校3年生の大学進学への意識や奨学金に関する意識などを調査し、本提言の参考資料とするために実施した。

(2) 調査対象

神奈川県立高校の高校3年生 255名

(3) 調査方法

HRの時間にアンケート用紙を配りその場で回答してもらう。

(4) 調査日

平成28年11月10日

(5) アンケート総数

255名分

(6) 分析の手法

- 設問のなかには前問に「はい」と答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなっている。
- 設問には1つのみ答えるもの（シングルアンサー）と複数回答のもの（マルチアンサー）があり、複数回答の設問では、表の割合の合計は100%を超える。
- 表の左上に設問の種類を記載している。SAはシングルアンサー、MAはマルチアンサーである。
- 割合は選択肢ごとに小数第1位で四捨五入しており、「無回答」も割合に含めているため、割合の合計は100%にならないところがある。また、本文やグラフでは、四捨五入の上、整数表記しているところもある。
- クロス表では「無回答」など重要でない部分を割愛しているところがある。またクロス表では、割合が0の欄には斜線を入れている。
- 円グラフでは「無回答」など重要でない部分は割愛している。

II 調査結果（基本情報）

(1) 属性（性別）

SA	人数	割合
男性	114	45%
女性	141	55%
計	255	100%
無回答	0	

(2) 大学への進学意思

SA	人数	割合
はい	253	99%
いいえ	2	1%
計	255	100%
無回答	0	

(3) 志望大学について

※大学へ進学意思のある253人への限定設問

SA	人数	割合
国公立大学	62	24%
私立大学	173	68%
どちらも考えている	18	7%
計	253	100%
無回答	0	

(4) 学費への認識

※大学への進学意思のある 253 人への限定設問

SA	件数	割合
50 万円	0	0%
100 万円	2	1%
200 万円	13	5%
300 万円	22	9%
400 万円	48	19%
500 万円	79	31%
600 万円	75	30%
計	239	94%
無回答	14	6%

(5) 奨学金受給予定の学生

※大学への進学意思のある 253 人への限定設問

SA	人数	割合
はい	66	26%
いいえ	179	71%
計	245	97%
無回答	8	3%

III 奨学金を受給する者の奨学金への意識

(1) 給付型・貸与型について知っているか

※奨学金受給予定の66人への限定設問

SA	人数	割合
はい	59	89%
いいえ	7	11%
計	66	100%
無回答	0	

(2) 貸与型奨学金の返済義務を知っているか

※奨学金受給予定の66人への限定設問

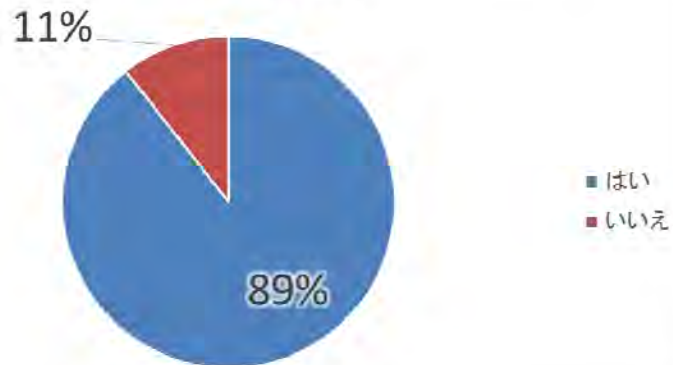
SA	人数	割合
はい	60	91%
いいえ	5	8%
計	65	98%
無回答	1	2%

(3) 返済への不安を感じているか

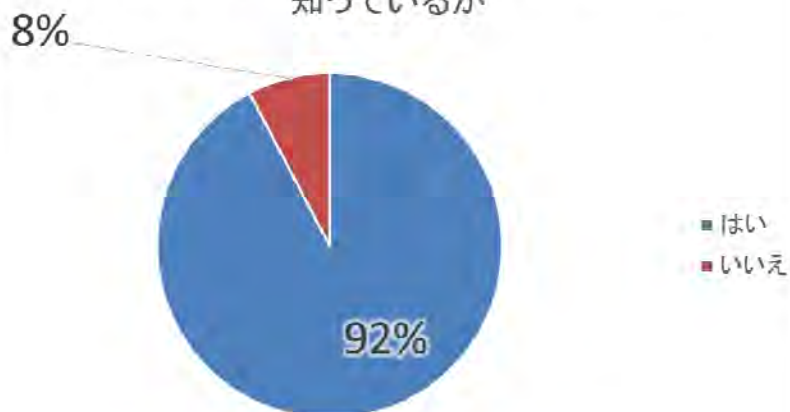
※奨学金受給予定の66人への限定設問

SA	人数	割合
はい	57	86%
いいえ	9	14%
計	66	100%
無回答	0	

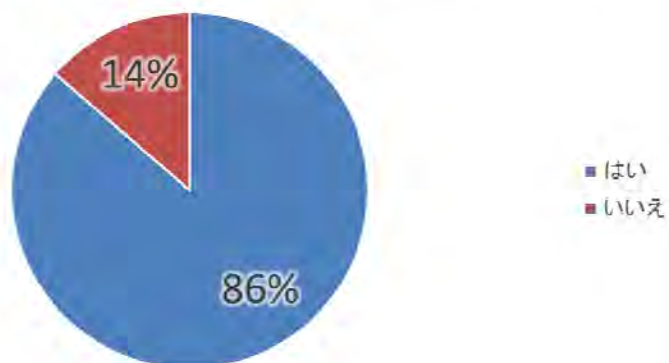
(1) (奨学金受給予定者に)
奨学金には給付型・貸与型があることを
知っているか



(2) (奨学金受給予定者に)
貸与型奨学金には返済義務があることを
知っているか



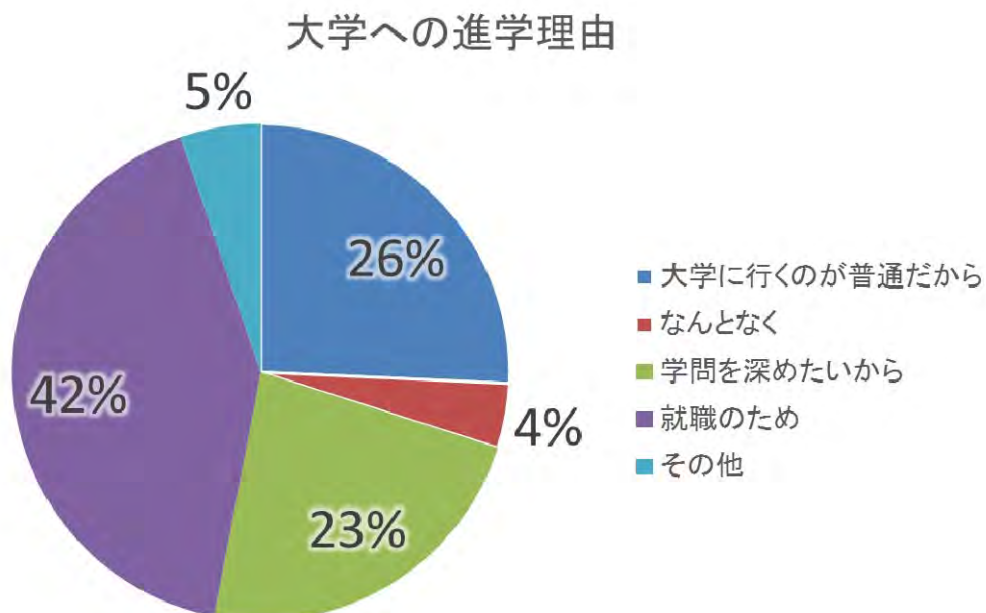
(3) (奨学金受給予定者に)
奨学金を借りた場合、返済に不安を感じると思うか



IV 大学への進学理由

※大学進学予定（253人）

MA	人数	割合
大学に行くのが普通だから	98	39%
なんとなく	16	6%
学問を深めたいから	88	35%
就職のため	159	63%
その他	20	8%
計	381	151%
無回答	0	



V 将来（就職）への意識

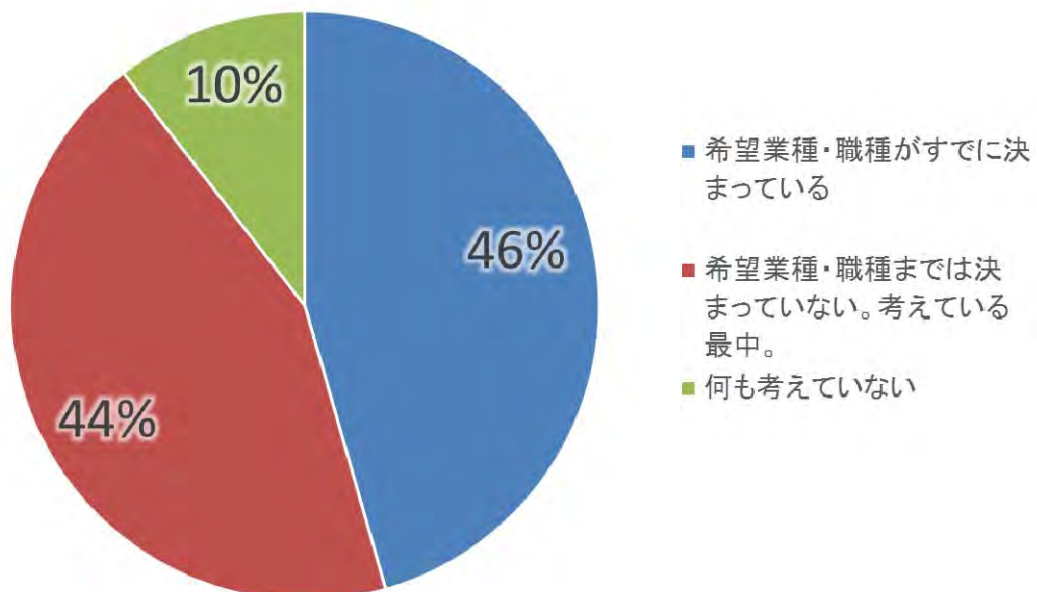
高校生を、(1) 大学進学を希望する学生、そしてその内 (2) 奨学金の受給を予定している学生、加えて受給を予定している学生中の (3) 給付型・貸与型の知識の有無、(4) 貸与型奨学金の返済義務の知識の有無、(5) 返済への不安感の有無の 5 つに層化して分析。ここには (1) と (3) (4) (5) を記載。

(1) 大学進学を希望する学生の将来（就職）への意識

大学進学予定（253人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	108	43%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	104	41%
何も考えていない	25	10%
計	237	94%
無回答	16	6%

大学進学を希望する学生の将来(就職)への意識



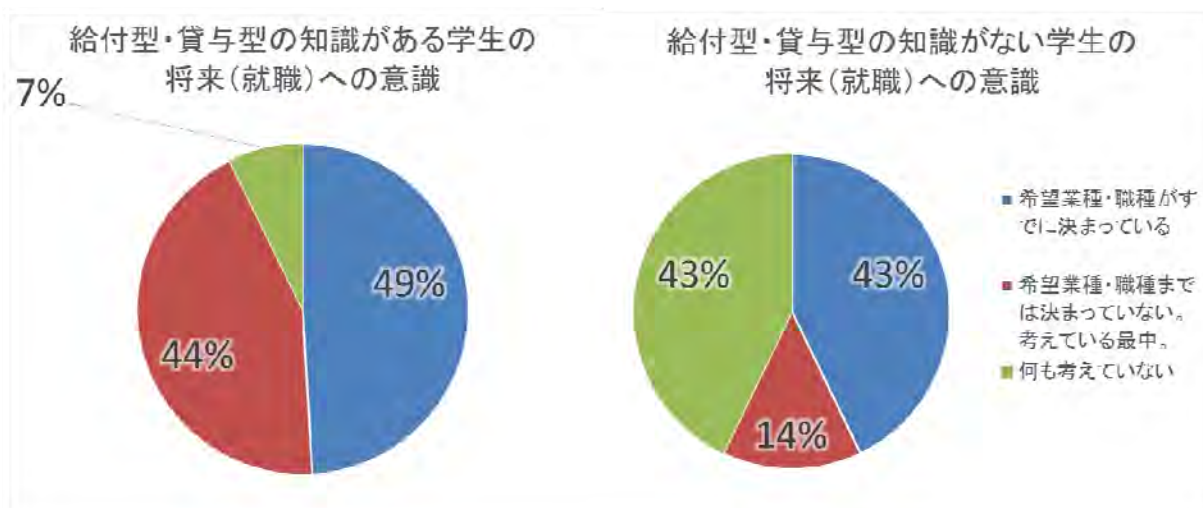
(2) 給付型・貸与型についての知識に応じた将来（就職）への意識

給付型・貸与型の知識がある人（59人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	27	46%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	24	41%
何も考えていない	4	7%
計	55	93%
無回答	4	7%

給付型・貸与型の知識がない人（7人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	3	43%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	1	14%
何も考えていない	3	43%
計	7	100%
無回答	0	



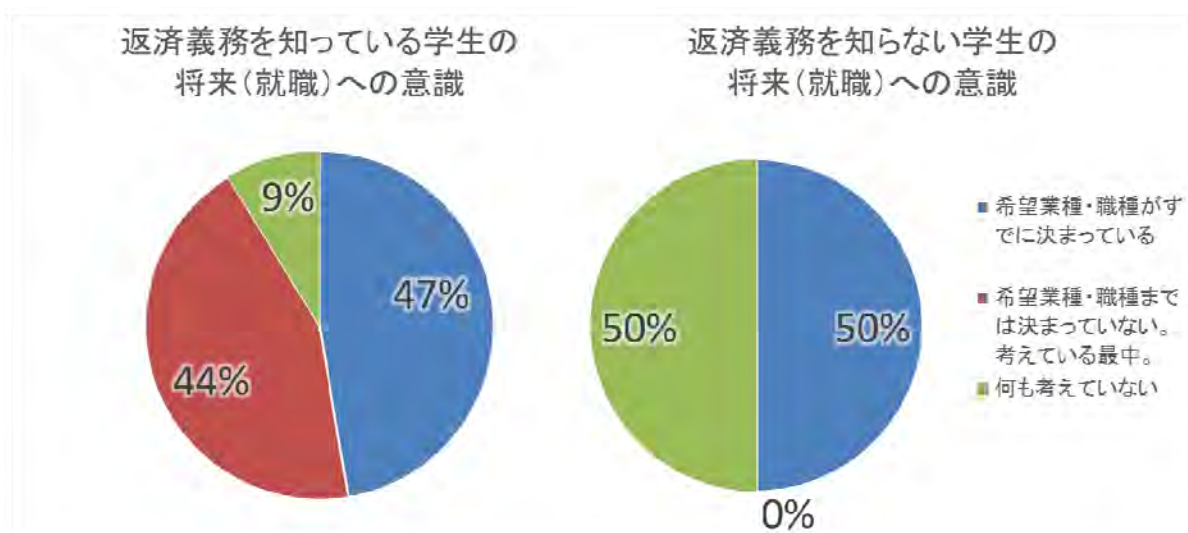
(3) 貸与型奨学金の返済義務の知識に応じた将来（就職）への意識

貸与型奨学金の返済義務の知識がある人（60人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	27	45%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	25	42%
何も考えていない	5	8%
計	57	95%
無回答	3	5%

貸与型奨学金の返済義務の知識がない人（5人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	2	40%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	0	0%
何も考えていない	2	40%
計	4	80%
無回答	1	20%



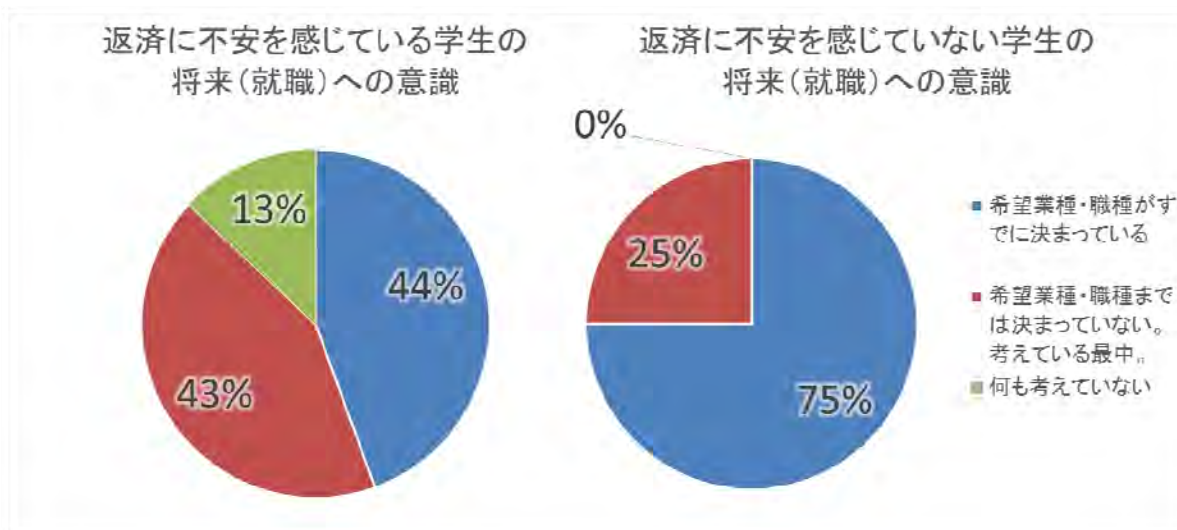
(4) 返済への不安感に応じた将来（就職）への意識

返済に不安を感じている人（57人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	24	42%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	23	40%
何も考えていない	7	12%
計	54	95%
無回答	3	5%

返済に不安を感じていない人（9人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	6	67%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	2	22%
何も考えていない	0	0%
計	8	89%
無回答	1	11%



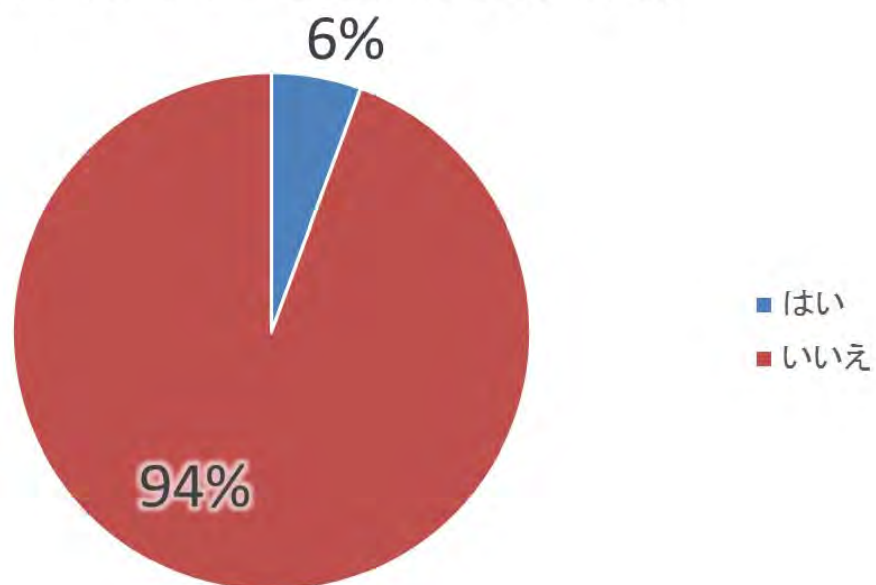
VI ギャップイヤーについて

(1) ギャップイヤーを聞いたことがあるか

255 人全員を対象

SA	人数	割合
はい	14	5%
いいえ	235	92%
計	249	98%
無回答	6	2%

ギャップイヤーを聞いたことがあるか



(2) ギャップイヤーを利用してみたいか

高校生を、①大学進学を希望する学生、その内②奨学金の受給を予定している学生、の二つに層化して分析。

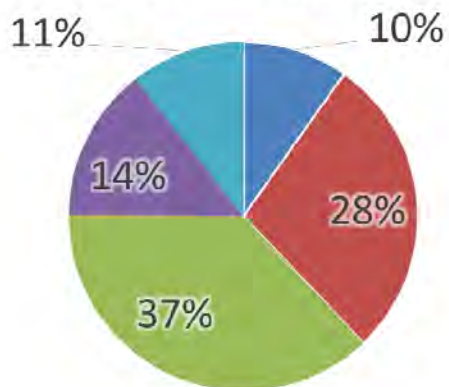
①大学進学予定（253人）

SA	人数	割合
とても思う	24	9%
思う	69	27%
どちらとも言えない	91	36%
あまり思わない	35	14%
思わない	26	10%
計	245	97%
無回答	8	3%

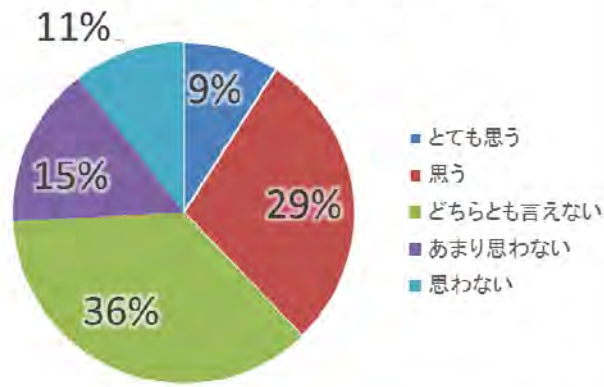
②奨学金受給予定（66人）

SA	人数	割合
とても思う	6	9%
思う	19	29%
どちらとも言えない	24	36%
あまり思わない	10	15%
思わない	7	11%
計	66	100%
無回答	0	

(大学進学を予定している学生に)
ギャップイヤーを利用したいか



(奨学金受給予定の学生に)
ギャップイヤーを利用したいか



- とても思う
- 思う
- どちらとも言えない
- あまり思わない
- 思わない

VII インターン（就業体験）について

高校生を、①大学進学を希望する学生、その内②奨学金の受給を予定している学生、の二つに層化して分析。

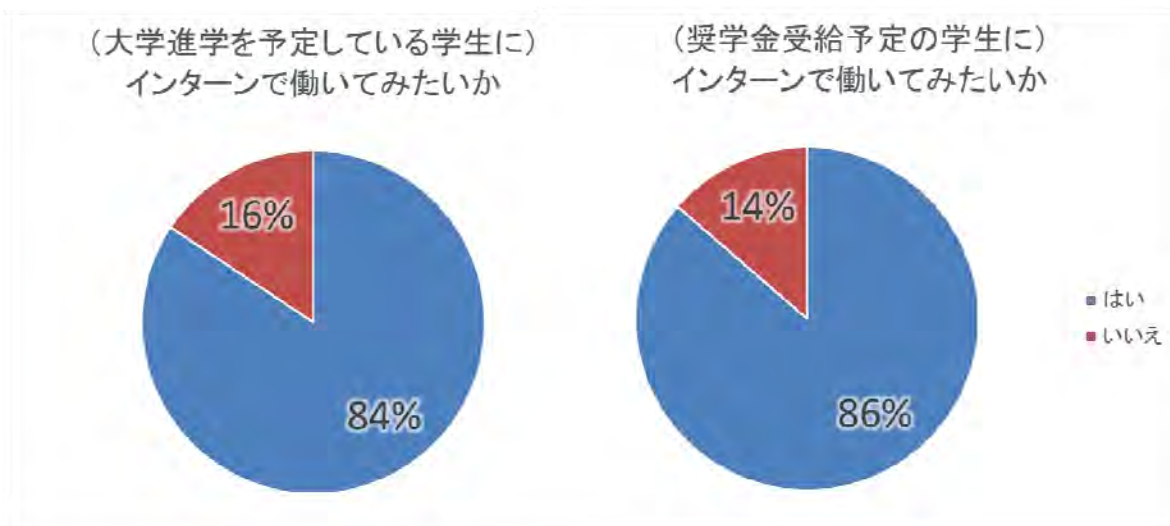
(1) 大学進学前にインターン（就業体験）をしてみたいか

①大学進学予定（253人）

SA	人数	割合
はい	205	81%
いいえ	38	15%
計	243	96%
無回答	10	4%

②奨学金受給予定（66人）

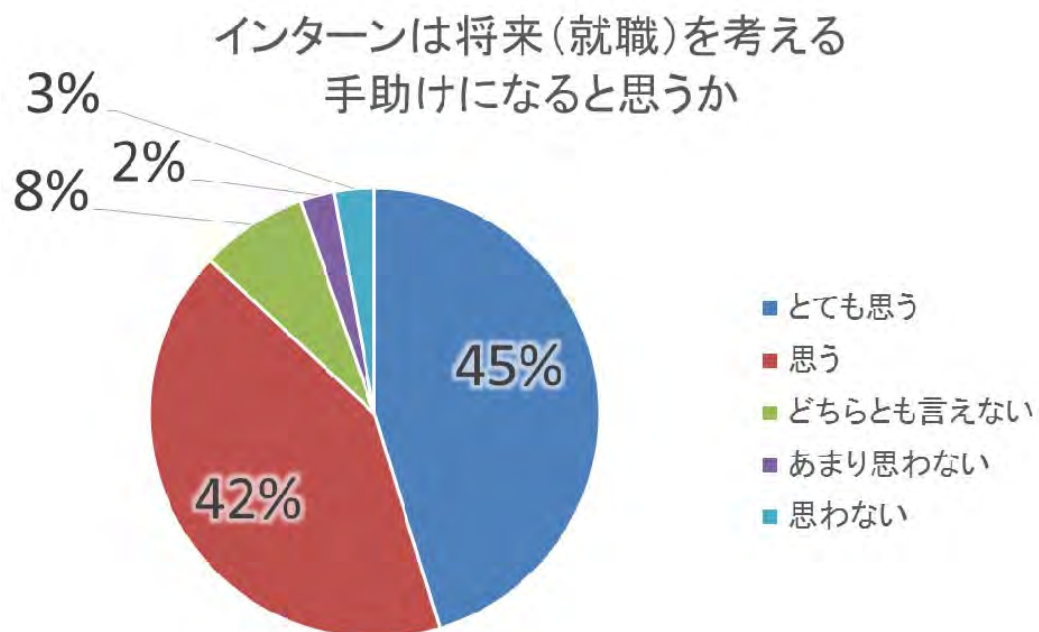
SA	人数	割合
はい	57	86%
いいえ	9	14%
計	66	100%
無回答	0	



(2) インターン(就業体験)のような機会を利用することは、自分の将来(就職)について考える手助けになると思うか

大学進学予定 (253 人)

SA	人数	割合
とても思う	111	44%
思う	102	40%
どちらとも言えない	19	8%
あまり思わない	6	2%
思わない	7	3%
計	245	97%
無回答	8	3%

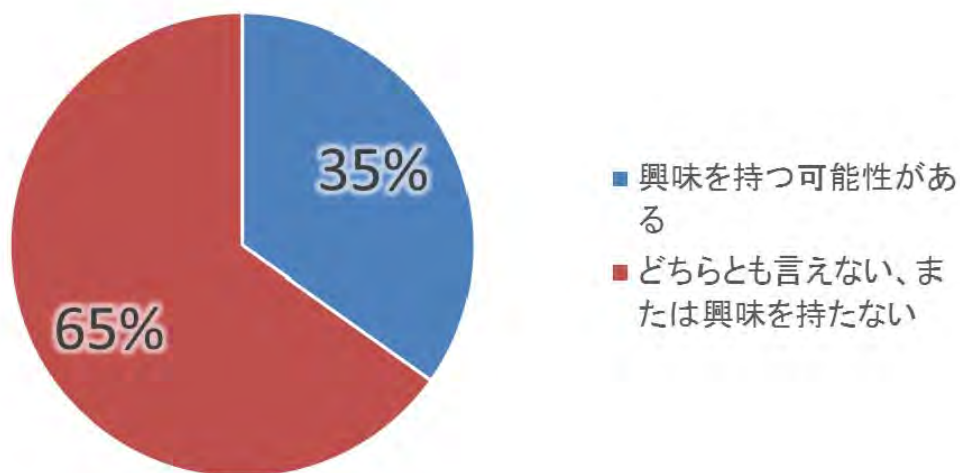


VIII 本制度に興味を持つ可能性のある高校生の割合

奨学金受給者（66名）の中で、設問11「ギャップイヤーを利用してみたいか」で「とても思う」「思う」を選択し、且つ設問12「インターンで働いてみたい」で「はい」を選択した学生の割合。

…約35%が本提言に興味を持つ可能性があると予想できる。

本提言に興味を持つ可能性のある 高校生の割合



IX 調査票原本

奨学金に関するアンケートのお願い

学習院大学経済学部 3年 清水ゼミ

●●高校3年生の皆様へ

新学期が始まりお忙しいところ大変失礼いたします。

私たち、学習院大学経済学部3年 清水ゼミ では、日本銀行主催の日銀グランプリという大会において「ギャップイヤーを応用したデモワーク型奨学金の創設」という提言をしようと考えています。そこで、高校3年生の皆さんの大学への意識や、奨学金に関する意識を調査したいと思っています。

いただいた回答は、上記のアンケートの目的以外に一切使用しません。どうかご協力のほど、よろしく願いいたします。

当てはまるものに丸をつけてください。

【学年】 ①1年生 ②2年生 ③3年生

【性別】 男 ・ 女

(1) あなたは大学に進学しようと考えていますか。 はい ・ いいえ

(1)で「はい」を選んだ方は、引き続き(2)以降もお答え下さい。

「いいえ」を選んだ方は(9)以降をお答え下さい。

(2) あなたは公立大学と私立大学、どちらに進学しようと考えていますか。

①国立大学 ②私立大学 ③どちらも考えている

(3) なぜ大学に進学しようと考えましたか。あなたの感覚に一番近いものをお答えください。

①大学に行くのが普通だから ②なんとなく ③学問を深めたいから ④就職のため
⑤その他()

(4) 大学に4年間通うために必要な学費は、いくらくらいだと思いますか。あなたの志望校の学費に近いと感じる額をお答えください。(国立と私立を併願する予定の方は、私立大学の学費についてお答えください。)

①50万円 ②100万円 ③200万円 ④300万円 ⑤400万円 ⑥500万円 ⑦600万円

(5) 大学に進学するために奨学金を利用しようと考えていますか。 はい ・ いいえ

(5) で「はい」を選んだ方は、以下の(6)～(8)もお答えください。

(6) 奨学金には「給付型」と「貸与型」の2種類があることを知っていますか。

はい ・ いいえ

(7) 「貸与型」の奨学金を借りた場合、返済義務があることを知っていますか。

はい ・ いいえ

(8) 仮に奨学金を借りた場合、将来返済できるかというような不安を持つと思いますか。

はい ・ いいえ

(9) 将来(就職)についてどう考えていますか。ご自身の今の状況に近いものをお答え下さい。

- ① 希望業種・職種がすでに決まっている
- ② 希望業種・職種までは決まっていない。考えている最中。
- ③ 何も考えていない。

(10) 「ギャップイヤー」という言葉を今まで耳にしたことがありますか？

はい ・ いいえ

(11) 「ギャップイヤー」という制度は自ら特別休学を申請し、休学期間をボランティアや就業体験などを通じて自己を成長させるための期間に充てる仕組みのことで、外国、特にオーストラリアでは50%を超える大学生が利用しており、広く普及しています。

あなたは「ギャップイヤー」を利用してみたいですか？

- ①とても思う ②思う ③どちらとも言えない ④あまり思わない ⑤思わない

(12) 大学に進学する前に、もし「インターン(就業体験)」のような形で、実際に企業で働く機会が提供されるとしたら、働いてみたいと思いますか。

はい ・ いいえ

(13) (12)のような機会を利用することは、自分の将来(就職)について考える手助けになると思いますか。

- ①とても思う ②思う ③どちらとも言えない ④あまり思わない ⑤思わない

ご協力ありがとうございました！

2. 平成 28 年 大学学部生の奨学金に関するアンケート調査結果

目次

I	調査の概要	37
(1)	調査目的	37
(2)	調査対象	37
(3)	調査方法	37
(4)	調査日	37
(5)	アンケート総数	37
(6)	分析の手法	37
II	調査結果（基本情報）	38
(1)	属性（学年）	38
(2)	属性（性別）	38
(3)	属性（通学）	38
III	奨学金を受給している者の現状	39
(1)	奨学金を借りているか	39
(2)	その奨学金は貸与型か給付型か	39
(3)	月額でいくらくらい借りているか（単位：円）	40
(4)	返済への不安を感じているか	40
IV	大学への進学理由	43
V	将来（就職）への意識	44
(1)	調査した学生全員の将来（就職）への意識	44

VI	ギャップイヤーについて	45
	(1) ギャップイヤーを聞いたことがあるか	45
	(2) ギャップイヤーを利用してみたいか	46
	(3) 大学休学して自己の社会的成長を期待できる活動をするとしたら何？ 47	
VII	インターン（就業体験）について	48
	(1) 大学進学前にインターン（就業体験）をしてみたいか	48
	(2) 大学進学前のインターンシップを利用する場合、どのような仕事をしてみたいか	49
	(3) インターンのような機会を利用することは、自分の将来（就職）について考える手助けになると思うか	50
VIII	本制度に興味を持つ可能性のある大学生の割合	51
IX	調査票原本	52

I 調査の概要

(1) 調査目的

「奨学金に関するアンケートのお願い」は、本提言「ギャップイヤーを応用したデモワーク型奨学金の創設」を考えるにあたり、実際の大学学部生の大学への進学理由や奨学金に関する意識などを調査し、本提言の参考資料とするために実施した。

(2) 調査対象

学習院大学の学部 1 年生～4 年生

(3) 調査方法

講義内でアンケート用紙を配り回答してもらう。

(4) 調査日

平成 28 年 11 月 14 日～17 日

(5) アンケート総数

242 名分

(6) 分析の手法

- 設問のなかには前問に「はい」と答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなっている。
- 設問には 1 つのみ答えるもの（シングルアンサー）と複数回答のもの（マルチアンサー）と数値の自由回答（フリーアンサー）があり、複数回答の設問では、表記の割合の合計は 100%を超える。
- 表の左上に設問の種類を記載している。SA はシングルアンサー、MA はマルチアンサー、FA はフリーアンサーである。
- 割合は選択肢ごとに小数第 1 位で四捨五入しており、「無回答」も割合に含めているため、割合の合計は 100%にならないところがある。また、本文やグラフでは、四捨五入の上、整数表記しているところもある。
- クロス表では「無回答」など重要でない部分を割愛しているところがある。またクロス表では、割合が 0 の欄には斜線を入れている。
- 円グラフでは「無回答」など重要でない部分を割愛している。

II 調査結果（基本情報）

(1) 属性（学年）

SA	人数	割合
1年生	114	47%
2年生	109	45%
3年生	8	3%
4年生	10	4%
計	241	100%
無回答	1	0%

(2) 属性（性別）

SA	人数	割合
男性	150	62%
女性	91	38%
計	241	100%
無回答	1	0%

(3) 属性（通学）

SA	人数	割合
自宅から	219	90%
下宿先から	21	9%
計	240	99%
無回答	2	1%

III 奨学金を受給している者の現状

(1) 奨学金を借りているか

SA	人数	割合
はい	63	26%
いいえ	172	71%
計	235	97%
無回答	7	3%

(2) その奨学金は貸与型か給付型か

※設問 1 で奨学金を借りていると答えた 63 人への限定設問

SA	人数	割合
貸与型	56	89%
給付型	6	10%
計	62	98%
無回答	1	2%

(3) 月額でいくらくらい借りているか (単位: 円)

※設問 2 で貸与型奨学金を借りていると答えた 63 人への限定設問

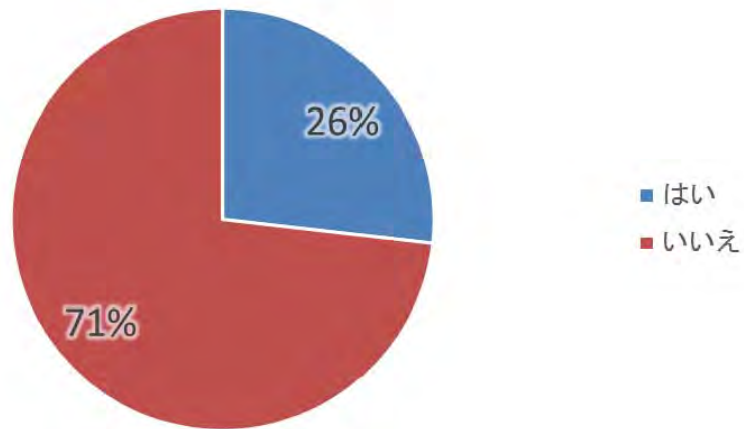
FA	人数	割合
27,000	1	2%
30,000	10	16%
35,000	1	2%
40,000	1	2%
48,000	2	3%
50,000	14	22%
54,000	8	13%
64,000	2	3%
80,000	5	8%
90,000	1	2%
100,000	4	6%
105,000	1	2%
170,000	1	2%
220,000	1	2%
合計	52	83%
無回答	11	17%

(4) 返済への不安を感じているか

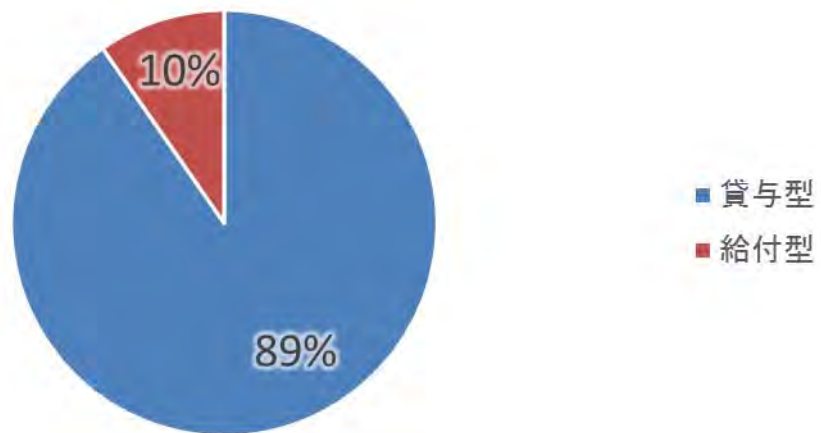
※設問 2 で貸与型奨学金を借りていると答えた 56 人への限定設問

SA	人数	割合
はい	36	64%
いいえ	20	36%
計	56	100%
無回答	0	

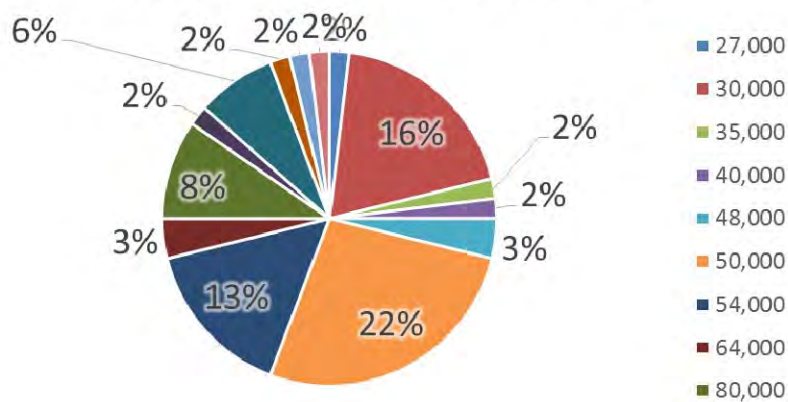
(1) 奨学金を借りているか



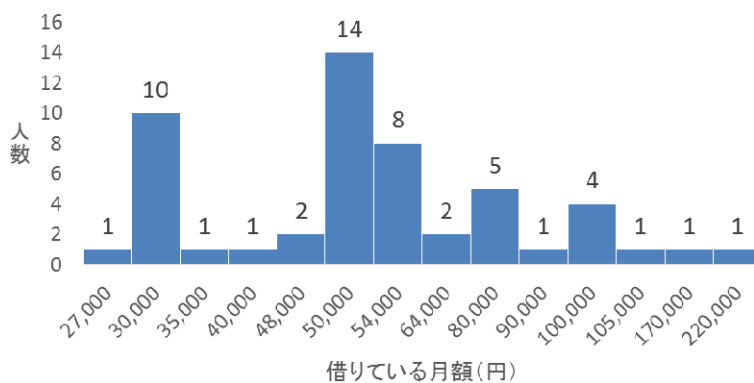
(2) (奨学金受給者に)
貸与型と給付型どちらを受給しているか



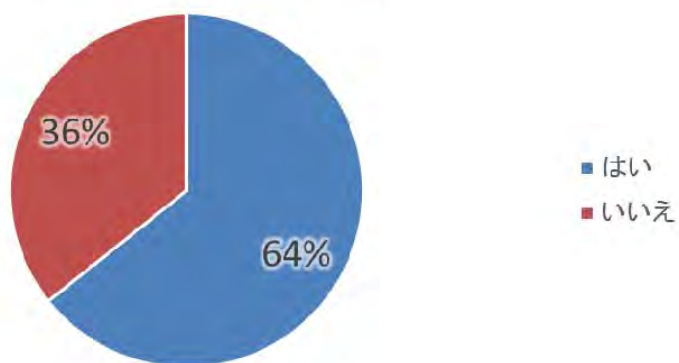
(3) (奨学金受給者に)
月額でいくら借りているか(単位:円)



(3) (奨学金受給者に)
月額でいくら借りているか



(4) (奨学金受給者に)
返済への不安を感じているか

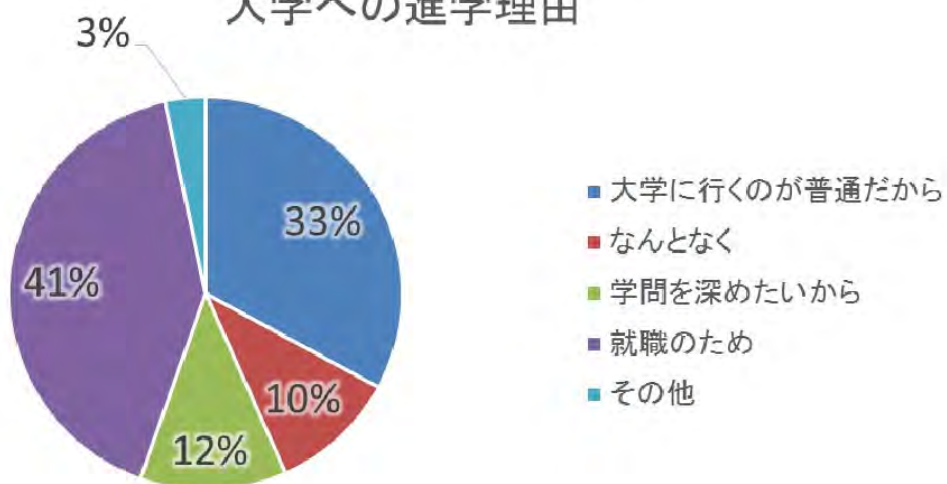


IV 大学への進学理由

調査した学生全員の大学進学理由 (242人)

MA	人数	割合
大学に行くのが普通だから	79	33%
なんとなく	25	10%
学問を深めたいから	29	12%
就職のため	99	41%
その他	8	3%
計	240	99%
無回答	2	4%

(1) (調査した学生全員の)
大学への進学理由



V 将来（就職）への意識

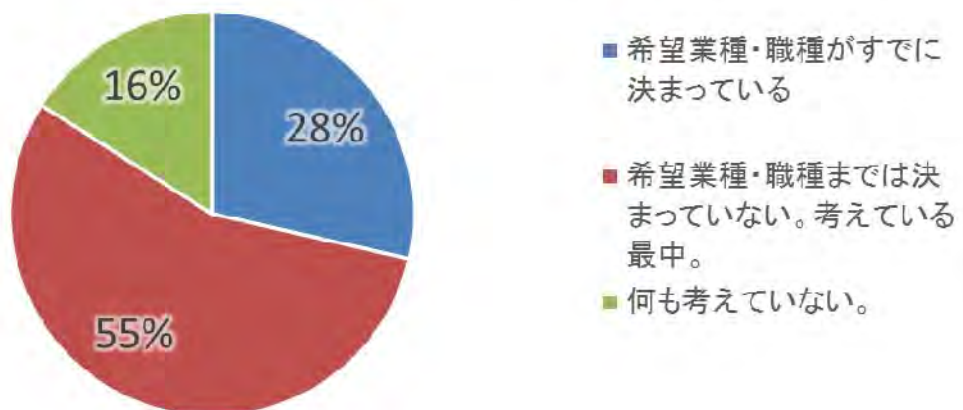
大学生を、（1）調査した学生全体、そしてその内（2）貸与型奨学金を受給している学生、加えて貸与型奨学金を受給している学生中の（3）返済への不安感の有無の3つに層化して分析。ここには（1）のみ記載。

（1） 調査した学生全員の将来（就職）への意識

※（242人）

SA	人数	割合
希望業種・職種がすでに決まっている	68	28%
希望業種・職種までは決まっていない。 考えている最中。	132	55%
何も考えていない	38	16%
計	238	98%
無回答	4	2%

（1）（調査した学生全員の） 将来（就職）への意識



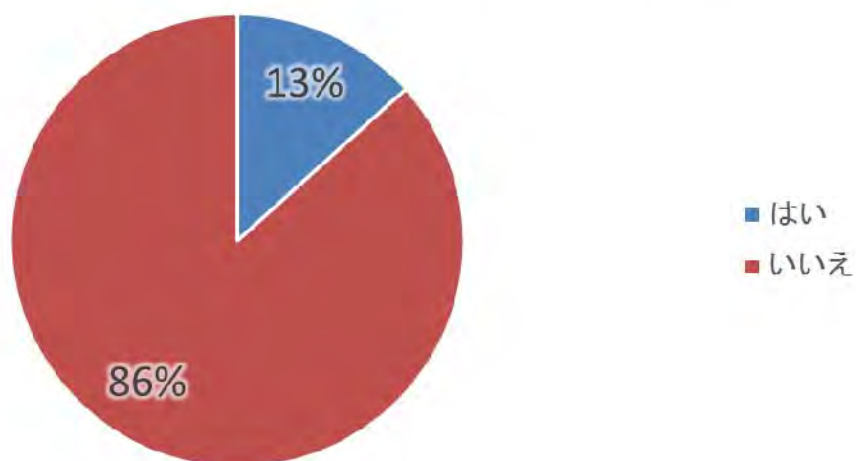
VI ギャップイヤーについて

(1) ギャップイヤーを聞いたことがあるか

調査した学生全員 (242人)

SA	人数	割合
はい	32	13%
いいえ	208	86%
計	240	99%
無回答	2	4%

(1) ギャップイヤーを聞いたことがあるか



(2) ギャップイヤーを利用してみたいか

大学生を、①調査した学生全員、その内②貸与型奨学金を受給している学生、の二つに層化して分析。

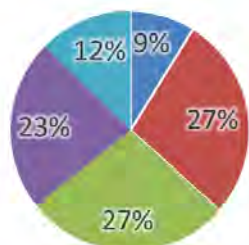
①調査した学生全員 (242人)

SA	人数	割合
とても思う	21	9%
思う	66	27%
どちらとも言えない	66	27%
あまり思わない	55	23%
思わない	30	12%
計	238	98%
無回答	4	2%

②貸与型奨学金受給者 (56人)

SA	人数	割合
とても思う	5	9%
思う	14	25%
どちらとも言えない	17	30%
あまり思わない	12	21%
思わない	8	14%
計	56	100%
無回答	0	0%

(2) (調査した学生全員に)
ギャップイヤーを利用したいと思うか



(2) (貸与型奨学金受給者に)
ギャップイヤーを利用してみたいと思うか



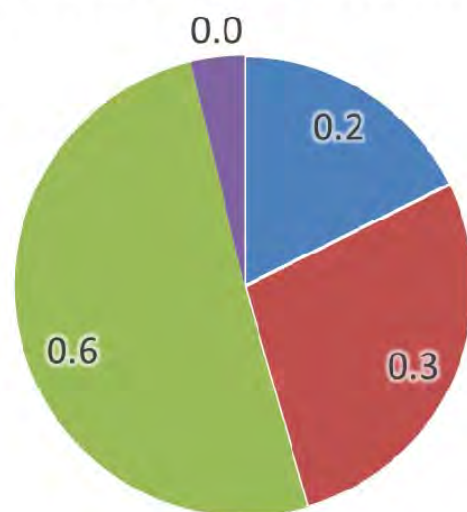
- とても思う
- 思う
- どちらとも言えない
- あまり思わない
- 思わない

(3) 大学休学して自己の社会的成長を期待できる活動をするとしたら何？

調査した学生全員 (242人)

MA	人数	割合
ボランティア活動	52	0.2
一年間長期インターンシップ	82	0.3
留学体験	149	0.6
その他	11	0.0
計	294	121%
無回答	6	2%

(3) (調査した学生全員に)
もし大学を休学したら
どのような活動をしたいか



VII インターン（就業体験）について

大学生を、①調査した学生全員、その内②貸与型奨学金を受給している学生、の二つに層化して分析。

(1) 大学進学前にインターン（就業体験）をしてみたいか

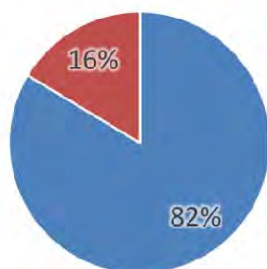
①調査した学生全員（242人）

SA	人数	割合
はい	199	82%
いいえ	39	16%
計	238	98%
無回答	4	2%

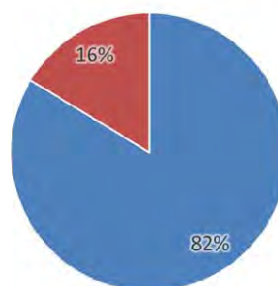
②貸与型奨学金受給者（56人）

SA	人数	割合
はい	46	82%
いいえ	9	16%
計	55	98%
無回答	1	2%

(1) (調査した学生全員に)
大学進学前にインターンをしてみたいか



(1) (貸与型奨学金受給者に)
大学進学前にインターンをしてみたいか



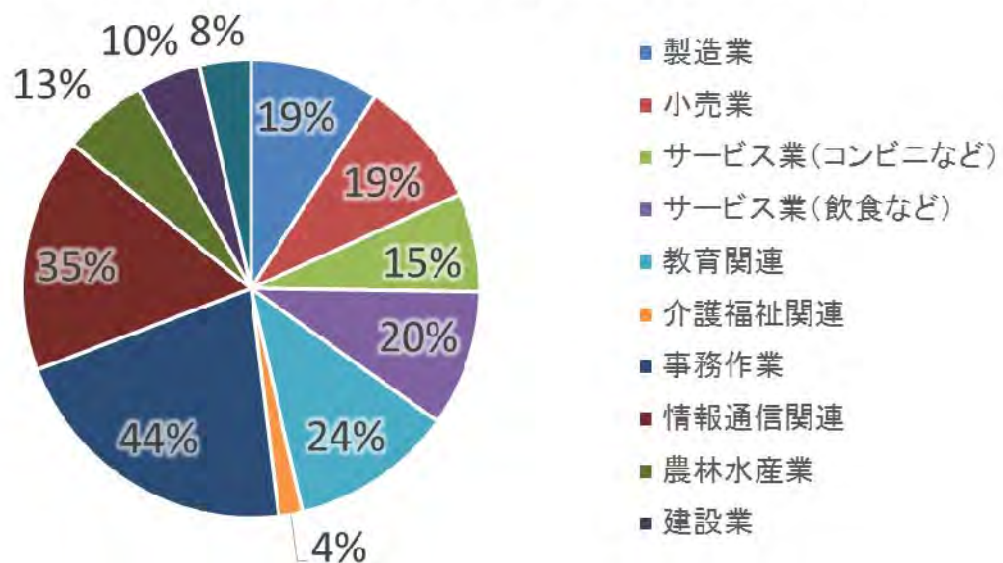
■ はい
■ いいえ

(2) 大学進学前のインターンシップを利用する場合、どのような仕事をしてみたいか

※調査した学生全員（242人）

MA	人数	割合
製造業	38	19%
小売業	38	19%
サービス業（コンビニなど）	29	15%
サービス業（飲食など）	40	20%
教育関連	48	24%
介護福祉関連	7	4%
事務作業	88	44%
情報通信関連	69	35%
農林水産業	25	13%
建設業	19	10%
その他	15	8%
合計	416	209%
無回答	5	3%

(2) インターンでどのような仕事をしてみたいか

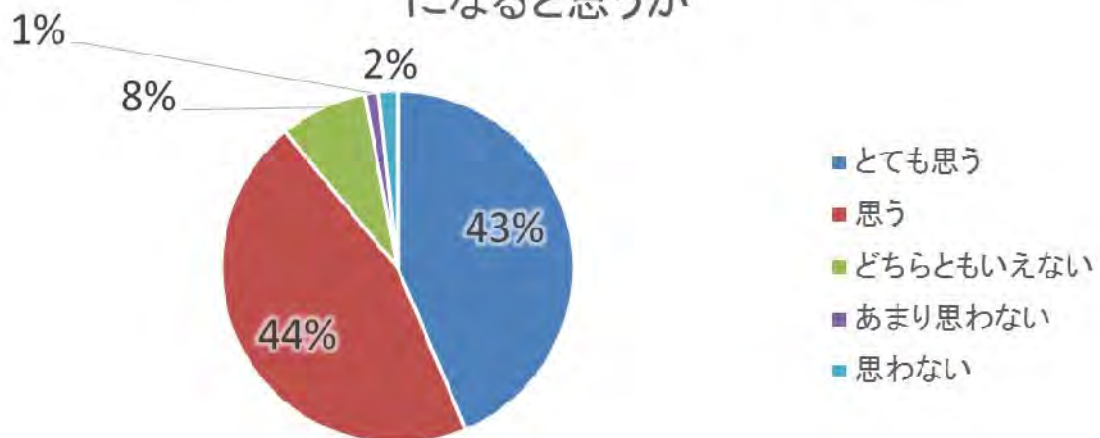


(3) インターンのような機会を利用することは、自分の将来(就職)について考える手助けになると思うか

① 調査した学生全員 (242人)

SA	人数	割合
とても思う	103	43%
思う	107	44%
どちらとも言えない	19	8%
あまり思わない	3	1%
思わない	4	2%
計	236	98%
無回答	6	2%

(3) インターンのような機会を利用することは、
自分の将来(就職)について考える手助け
になると思うか

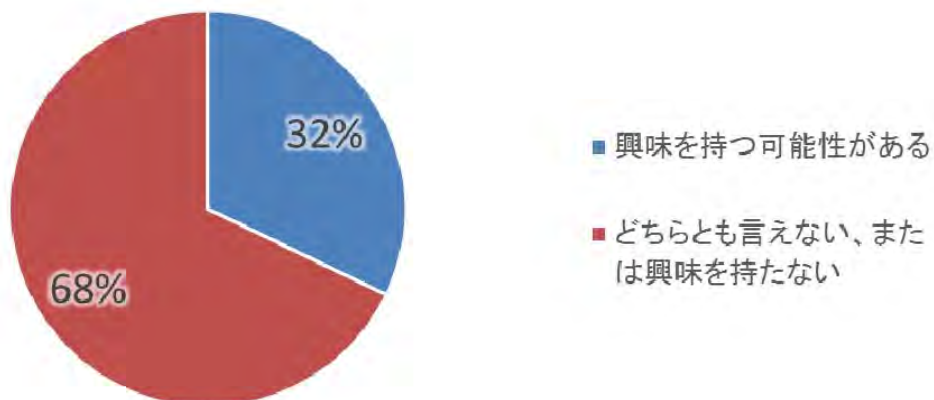


VIII 本制度に興味を持つ可能性のある大学生の割合

貸与型奨学金受給者（56名）の中で、設問7「ギャップイヤーを利用してみたいか」で「とても思う」「思う」を選択し、且つ設問10「大学進学前にインターンで働いてみたい」で「はい」を選択した学生の割合。

…約32%が本提言に興味を持つ可能性があると予想できる。

本提言に興味を持つ可能性のある 大学生の割合



IX 調査票原本

奨学金に関するアンケートのお願い

学習院大学経済学部3年 清水順子ゼミ

学習院大学 経済学部の皆様へ

私たち、学習院大学経済学部3年 清水順子ゼミ では、日本銀行主催の日銀グランプリという大会において「ギャップイヤーを応用したデモワーク型奨学金の創設」という提言をしようと考えています。そこで、皆様の奨学金に対する情報や大学生活の意識について調査させていただきたいと思っております。

いただいた回答は、上記のアンケートの目的以外に一切使用しません。どうかご協力のほど、よろしくお願いいたします。

当てはまるものに丸をつけてください。

【学年】 ①1年生 ②2年生 ③3年生 ④4年生

【性別】 男 ・ 女

【通学】 ①自宅から ②下宿先から

(1) あなたは奨学金を借りていますか？ はい・いいえ

(1) で「はい」と回答された方は(2)以降の回答をお願いいたします。

(1) で「いいえ」と回答された方は(5)以降の回答をお願いいたします。

(2) その奨学金は「貸与型」ですか、「給付型」ですか。 貸与型・給付型

(3) 月額でいくらほど借りていますか？ ()

(4) 奨学金を将来返済できるかという不安はありますか？ はい・いいえ

——※ここからは奨学金の有無にかかわらずご回答をお願いします。——

(5) なぜ大学に進学しようと考えましたか。あなたの感覚に一番近いものをお答えください。

①大学に行くのが普通だから ②なんとなく ③学問を深めたいから ④就職のため

⑤その他 ()

(6) 将来(就職)についてどう考えていますか。ご自身の今の状況に近いものをお答え下さい。

- ① 希望業種・職種がすでに決まっている
- ② 希望業種・職種までは決まっていない。考えている最中。
- ③ 何も考えていない。

(7) 「ギャップイヤー」という言葉を今まで耳にしたことがありますか? はい ・ いいえ

「ギャップイヤー」という制度は自ら特別休学を申請し、休学期間をボランティアや就業体験などを通じて自己を成長させるための期間に充てる仕組みのことで、外国、特にオーストラリアでは50%を超える大学生が利用しており、広く普及しています。

(8) あなたは「ギャップイヤー」を利用してみたいですか?

- ① とても思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ あまり思わない ⑤ 思わない

(9) 大学を休学して自己の社会的成長の期待できる活動をするとしたら何をやりたいですか? (複数回答可)

- ① ボランティア活動 ② 1年間長期インターンシップ ③ 留学体験
- その他()

(10) 大学に進学する前に、もし「インターン(就業体験)」のような形で、実際に企業で働く機会が提供されるとしたら、働いてみたいと思いますか。

はい ・ いいえ

「はい」と答えた方は、どのような仕事ならしてみたいと思いますか? (複数回答可)

- ① 製造業 ② 小売業 ③ サービス業(コンビニなど) ④ サービス業(飲食など) ⑤ 教育関連
- ⑥ 介護福祉関連 ⑦ 事務作業 ⑧ 情報通信関連 ⑨ 農林水産業 ⑩ 建設業
- その他()

(11) 上記(10)のような機会を利用することは、自分の将来(就職)について考える手助けになると思いますか。

- ① とても思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ あまり思わない ⑤ 思わない

ご協力ありがとうございました!!

補足資料

1. 日本におけるインターンシップの現状

□ 補足 1 インターンシップの教育効果

「平成24年度産業経済研究委託事業「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」より引用。

① キャリア教育 (表面的な就職活動支援とは異なる)

- ・ 社会人基礎力などの汎用的能力や、キャリア自律、リーダーシップの育成
- ・ 自己の適性の理解 (キャリアガイダンス)

→ 単なる就職活動支援ではない。

キャリア教育の3段階
日本のキャリア教育は「就職活動支援」の段階にとどまっていることが多い。

↑ 本来の キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人基礎力 ・ リーダーシップ ・ キャリア目標 等
キャリア ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の適性や志向の理解 (Realistic Job Preview) ・ 働くということや業界の理解
就職活動 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接・ES対策等

*高橋委員発表より

② 専門教育の実質化

- ・ 専門分野と関連した業務の実践→学習へのフィードバック、学習意欲の向上

＜米国ではコーオペ教育を次のように定義＞

- ・ 教室での学習と、学生の学問上・職業上の目標に関連する分野での有益な職業体験とを統合する、組織化された教育戦略。
- ・ これにより理論と実践を結びつける漸進的な経験を提供する。
- ・ コーオペ教育は学生、教育機関、雇用主間の連携活動であり、当事者それぞれが固有の責任を追う

(National Commission for Co-operative Education 全米コーオペ教育委員会による)

*松高委員資料より

③ 教養教育 (社会における関係性の理解)

インターンシップを通して「学ぶこと」「働くこと」「生きること」のつながりを理解

インターンシップを通して
3要素がつながる

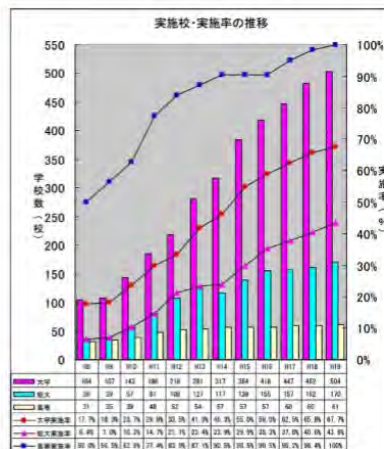
*佐藤委員資料より

しかし、日本ではこうした教育的効果の高いインターンシップの普及が量的にも質的にも極めて不十分ではないか

□ 補足 2 大学におけるインターンシップの普及状況

「平成24年度産業経済研究委託事業「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」より引用。

- インターンシップは約7割の大学で実施されており、参加人数も学部・大学院ともに増加傾向にある。
- しかし、在学生数に対する参加人数でみると、学部・大学院ともに少ない。



出所：大学等における平成19年度インターンシップ実施状況調査について (文部科学省、平成20年12月1日付)

《在学生に対する体験学習割合》

- ・ 学部：平成10年度0.6% → 平成19年度1.5%
- ・ 大学院：平成10年度0.2% → 平成19年度1.5%



出所：インターンシップの導入と運用のための手引き～インターンシップ・リアリティ～ (文部科学省、平成21年7月)

2. 日本の教育投資の現状

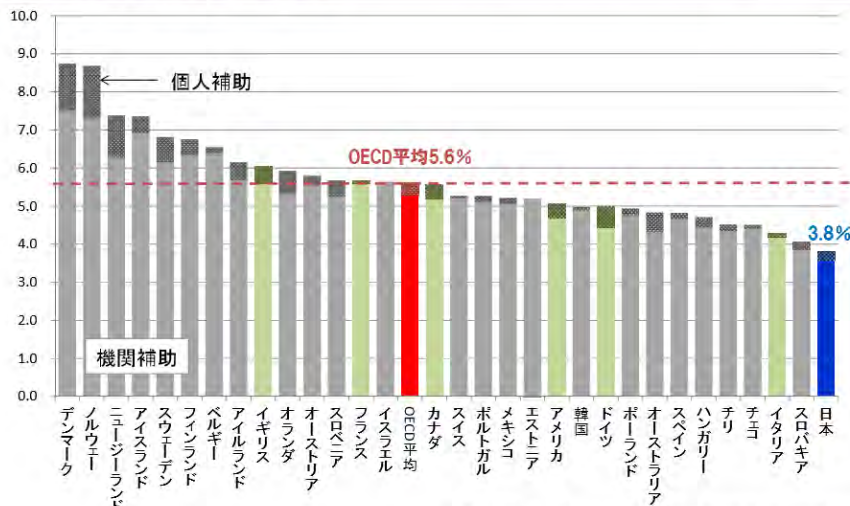
□ 補足 3 OECD 諸国の中の日本の教育投資の順位

平成 26 年 10 月 15 日の首相官邸「教育再生実行会議第 3 分科会（第 1 回）配布資料」の「資料 4 文部科学省提出資料」より引用（画像も引用）。

日本の公財政教育支出（対 GDP 比）は、OECD 諸国中最下位である。

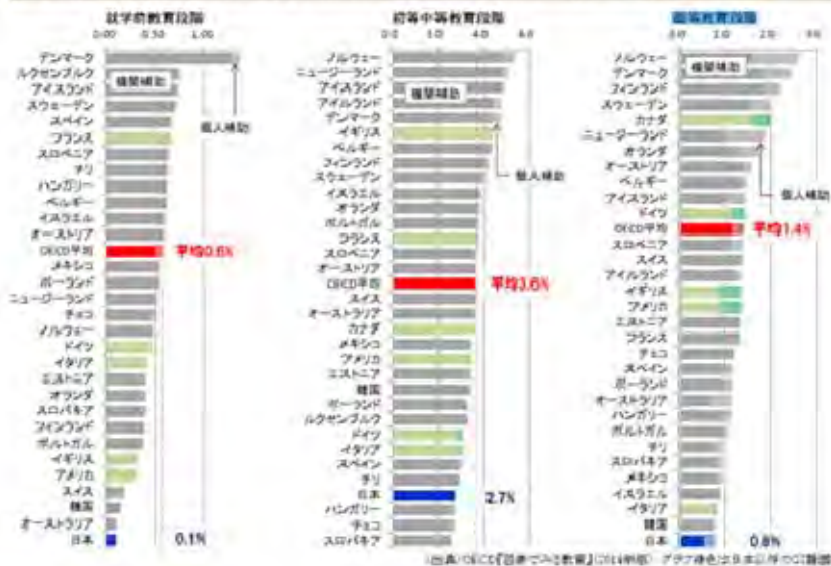
II. 諸外国と比較した我が国の教育投資 (1) 公財政教育支出の対GDP比 (2011年)

我が国の公財政教育支出の対GDP比は、機関補助と個人補助を合わせて3.8%であり、データの存在するOECD加盟国の中で最下位である。



(出典) OECD『図表でみる教育』(2014年版) グラフ緑色は日本以外のG7諸国²

我が国の公財政教育支出の対GDP比を教育段階別と比較しても、全ての教育段階でOECD平均を下回る。特に、就学前教育段階と高等教育段階では、OECD加盟国の中で最下位である。

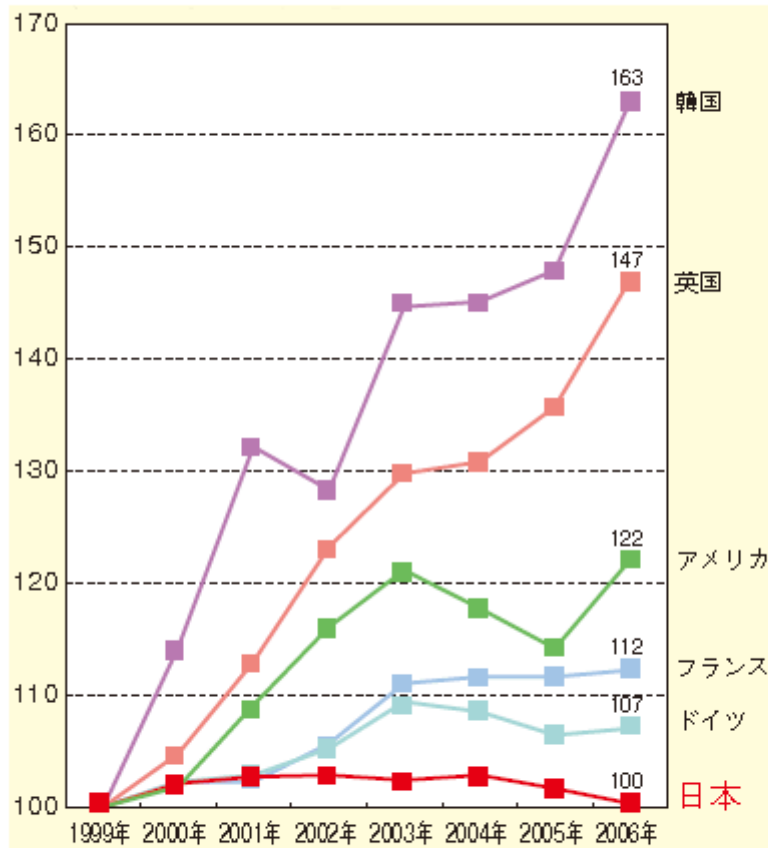


□ 補足 4 公財政教育支出伸率の日本と諸外国の比較

「平成 21 年度文部科学白書 第 1 章 家計負担の現状と教育投資の水準」の「図表 1-1-29 公財政教育支出の伸率」より引用（画像も引用）。

日本の公財政教育支出の伸率は、諸外国と比べ低い水準にある。

(1999年の公財政支出※を100として比較)



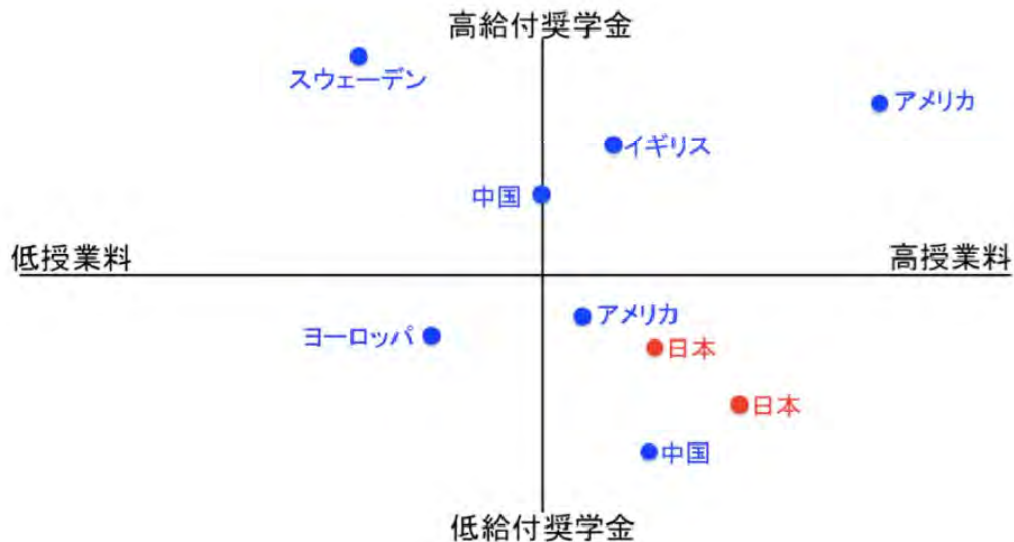
※各年の公財政教育支出はGDPデフレーターによる物価補正済み

(出典)OECD「EducationataGlance(2009)」より作成

□ 補足 5 諸外国との給付奨学金の比較

平成 18 年「大学教育部会（第 6 回）議事録・配付資料」の「資料 4 諸外国における授業料と奨学金制度改革」を参考に図を作成。

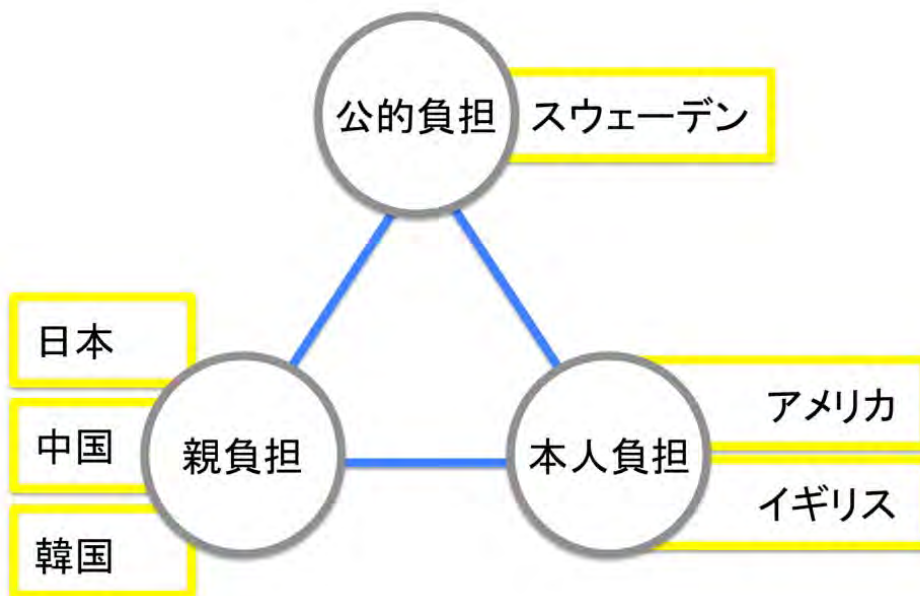
日本は諸外国と比べ高授業料であるにもかかわらず、奨学金の給付も少ないということもわかる。



□ 補足 6 教育負担の 3 つの主義

平成 18 年「大学教育部会（第 6 回）議事録・配付資料」の「資料 4 諸外国における授業料と奨学金制度改革」を参考に図を作成。

教育費の負担は、スウェーデンでは 100%公的負担、アメリカ合衆国とイギリス連合王国は学生本人の負担が多く、日本や韓国、中国といったアジア諸国は親負担がほとんどとなっている。



3. 諸外国の奨学金制度

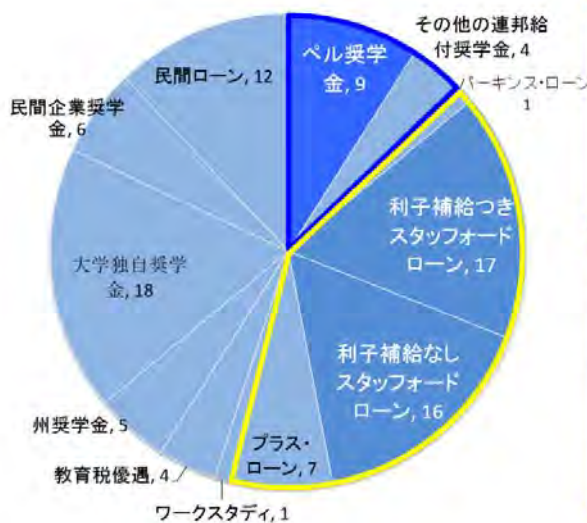
アメリカ合衆国



奨学金制度の中で最も多い割合を占めるのは、パーキンス・ローン、スタッフフォードローン、プラス・ローンなどのローンであり、最大で学費の6割まで受給できる政府からの給付型奨学金も充実している。

これらの奨学金を組み合わせることで在学中の教育費負担をほぼゼロにすることも可能で、全ての奨学金制度に政府が関わっているため、家庭や企業の安心度が高い。制度の多様性によって、両親の所得や家庭の事情に関係なく、全ての意欲ある学生に対して“学習権”が保障されており、日本よりも政府の援助が大きく、保障の厚み、自由度の高さも優れている。このような学生の“学習権”の保障は、日本も見習うべき点である。

□ 補足 7 アメリカの奨学金制度



- 政府が行う低所得者用の給付奨学金
- 家庭の所得が一定額以下の場合、申請を行えばほぼ全員が給付を受ける事ができる公的な奨学金
- 最大で学費の6割までの給付

- パーキンス・ローン
Subsidized loan
- スタッフフォードローン
Subsidized loan, Unsubsidized loan
- プラス・ローン
Subsidized loan

□ 補足 8 ローンの種類

Smart&Responsible financial life「学費ローンの種類と決め方」を参考に作成。

<http://smartandresponsible.com/blog/student-loan/>

奨学金を組み合わせることにより、在学中の教育費負担をほぼ 0 にすることも可能となっている。

	①	②	③	④
	パーキンス・ローン	利子補給つき Stafford ローン	利子補給なし Stafford ローン	プラス・ローン
条件	ファイナンシャル・ニーズが特に高いと認められる場合	ファイナンシャル・ニーズがある場合	①と②の限度額まで借りてもまだ借入の必要がある場合。ファイナンシャル・ニーズ必要なし	学生が借りられるローンを借り入れてもまだ借入が必要な場合
提供元	連邦政府からファンドの供給を受けた大学 大学がローンの提供・不提供と額を決定	連邦政府 各大学がローン額を決定		連邦政府 クレジット審査あり
連邦政府からの利子助成	在籍期間＋その後9ヶ月	在籍期間＋その後6ヶ月	なし	なし
利率(2014時点)	5%	6.80%		7.90%
origination fee	なし	1.05%		4.20%
返済	卒業後9ヶ月後から10年間で返済	卒業後6ヶ月後から10年(標準)～25年間(延長)で返済		借入れから60日後から開始。卒業から6ヶ月した時点まで返済開始を延期できる
その他	返済不能に陥った場合、②や③や④より寛大な返済免除			学生の親が利用

イギリス連合王国



奨学金の受給資格に収入制限がなく、原則として希望者全員が奨学金を受給することができる。学費を完全にカバーし、且つ学生の生活費の大半を支え、低所得者層のための法定奨学金(給付式)も存在し、意欲ある学生が経済的な理由で就学を断念させられることのないよう制度が充実する。政府の手厚い保障により必要とする全ての学生に奨学金が行き届き、勉強する権利が保障される。前述のマイナビによる大学生の意識調査では、“経済的に勉強を続けることが難しい”と答えた層は17.3%であり、奨学金の受給に審査が必要な日本では、経済的な理由で勉強ができない層も存在する。

□ 補足 9 イギリスの奨学金制度

Departments of Business, Innovation and skills

2006年改革で、授業料・奨学金政策を含む高等教育政策を所管していた大学・イノベーション技能省が、ビジネスとスキルを結びつけることを重視したため2009年6月5日に、BISに再編統合。

Student Loans Company

イギリス全体の学生への経済的支援を行う非政府組織 (BISが85%、スコットランド・ウェールズ・北アイルランドの政府が15%所有)

日本学生支援機構にあたる組織

公正機会局

2004年高等教育法により創設された独立公共団体。
2006年度の授業料3倍値上げが低所得層の高等教育進学を経済的な理由で阻害しないよう、低所得層や高等教育への参加率の低い層の高等教育への公正なアクセスを保護し促進することを助けることを目的とする。

大学独自給付奨学金
大学独自裁量給付奨学金
全国奨学金プログラム
生活費給付奨学金
特別支援給付奨学金
授業料ローン
生活費ローン
育児給付奨学金
親学習補助
旅費給付奨学金
教育維持補助金

オーストラリア連邦



学生が卒業後の自身の所得から税金方式で授業料を返還する“授業料の後払い制”を採用し、学生の平均貸与額は平均生活費の110%にも及び、8割強の学生が給付を受ける。学費、生活費を含む教育費を全て政府が保証するため、家計に対する教育費負担はゼロである。返却税率は給料水準によって異なり、失業中は返却を免除され、学生はインフレ率に応じた額のみを加算して返還すればよい。実質利子率は0%である。返済の責任が全て学生個人に帰属するため学生の就学意識が著しく向上する他、将来の教育費負担がなくなることで、出生率を上昇させる効果も期待できる。これは現在少子高齢化が深刻化し、戦後最低レベルの低出生率に悩む日本にとって、注目すべき点である。

□ 補足 10 オーストラリアの奨学金制度

「授業料後払い制」方式

- 卒業後の自身の所得から税金方式で返還
- 事前に一括して学費を支払うことも可能
- 返済の責任が全て学生個人に帰属
 - 自身の将来のために学習をしているという意識
 - 学生の就学意識が著しく向上

給料水準によって異なる
失業中は返却を免除
インフレ率に応じた額のみを加算し返還
=実質利子率は0%

25%の割引
(全体の2割弱が選択)

学費、生活費を含む教育費を全て政府が保証
現在および将来にわたる家計の負担が全くのゼロ

出生率上昇

子供の数によって養育費の増大に与える影響が大幅に軽減されるため多く子供を作る

フランス共和国



所得別に6階層に分け、家庭内の事情も加味して給付金額を決定する“社会的基準に基づく奨学金”が主流である。家庭ごとのニーズに応えたピンポイントな対応を行うことができ、より国民本位な奨学金を給付することが可能である。こうした国民1人1人に合わせた柔軟な制度は、日本も見習うべき点であると考えられる。+

「在日フランス大使館」の記事「フランスの高等教育制度（概要と近年の改革）」を参考に記述。

<http://www.ambafrance-jp.org/article4034>

ドイツ連邦共和国



奨学金のほとんどが連邦奨学法に基づく公的奨学金であり、一定の条件を満たした全ての学生に自動的に法律によって十分な額の奨学金の受給が保証される。教育に関わる費用はほぼ全て政府が保障を行い、受給者は給付を受けた金額の半額を無利子で返却すればよい。そのため、貧困階級の再生産などの資本主義経済における不可避免的な現象を緩和する効果を担う。+

4. 日本と先進諸外国の奨学金制度の違い

補足資料 2「日本の教育投資の現状」、3「諸外国の奨学金制度」からわかる通り、日本と諸外国のまず大きな違いは政府の補助の大きさである。諸外国と比べ、日本政府の教育費負担は圧倒的に低い水準にあり、給付型の奨学金も少ない。その上、低所得者は奨学金が返せないという将来を心配して借りることすらためらってしまうため、貸与型の奨学金もうまく利用できていない、ゆえに経済的理由で勉強ができない層が発生している。

さらに現在の日本では貸与型奨学金を借りたにも関わらず、結局それを返せないという層も存在しており、財源の多くが奨学金の返還金である現行の奨学金制度に対し負の影響を与えている。

日本の財政難については我々も把握しているため、政府の支出を増やすことに安易に賛成することはできない。しかし先に紹介した通り、先進諸国には多様な奨学金制度が存在し、「学ぼう」という意欲のある学生を政府が手厚く支援している現状は、考慮すべきである。労働人口が減っていく日本において、一人一人の労働生産性を高める「教育」への投資について、もう一度検討すべきではないか。そう考え、「デモワーク型奨学金」を考えた次第である。

参考文献・資料

1. 独立行政法人 日本学生支援機構 - JASSO (<http://www.jasso.go.jp/>)
2. 首相官邸 (<http://www.kantei.go.jp/>)
3. 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)
4. 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/>)
5. 厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/>)
6. 豊島区公式ホームページ (<http://www.city.toshima.lg.jp/index.html>)
7. マイナビニュース (<http://news.mynavi.jp/>)
8. キャリアバイト (<https://careerbaito.com/>)
9. 研究論文『欧米各国の奨学金制度』（鈴木寛,2001年）
10. ニッセイ基礎研究所『日本企業の CSR 活動の現状と今後の課題』（小本恵照）
(http://www.nli-research.co.jp/files/topics/37015_ext_18_0.pdf?site=nli)
11. 『グラミン銀行とマイクロファイナンスのコンセプト —奨学金制度のビジョン再検討のために—』（林 康史,刘 振楠）
(<http://repository.ris.ac.jp/dspace/bitstream/11266/5625/1/%5b139-164%5d.pdf>)
12. 在日フランス大使館 (<http://www.ambafrance-jp.org/-Japonais->)